

事業報告書

令和5年度

社会福祉法人 あかりの家

2023（令和5）年度 社会福祉法人あかりの家 事業報告

2024.3.31 現在

自閉症や発達障害のある方を中心とした総合的支援を行うため、さらに「自閉症総合援助センター」として地域の役割を果たせるように、法人内の各事業所との連携強化を図り、高度な専門的支援を展開できるよう努めた。

1. 事業内容

	事業所名	サービス	定員 (名)	備考	
1	障害者支援施設 あかりの家	生活介護	40		
		施設入所支援	40		
		短期入所	6		
		日中一時支援	10		
	【委託事業】		障害児等療育支援事業		兵庫県・姫路市
			強度行動障害地域生活支援事業		兵庫県
2	児童デイサービス ふたば	児童発達支援	10		
		放課後等デイサービス			
3	児童デイサービス つぼみ	児童発達支援	10		
		放課後等デイサービス			
		保育所等訪問	—		
4	ワークホーム高砂	生活介護	12		
		就労継続支援B型	28		
5	納豆工房なっところちゃん	生活介護	10		
		就労継続支援B型	10		
6	グループホーム希望山荘日笠	希望山荘日笠	10		
		オリーブの家	7		
		友愛の家	6		
7	地域支援センター あいあむ	障害者計画相談	—		
		障害児計画相談	—		
		地域移行	—		
		地域定着	—		
	【委託事業】		障害者等相談支援コーディネート事業		兵庫県
			障がい者基幹相談支援センター運営業務		高砂市
		障害者自立支援協議会運営業務		高砂市	
8	発達障害者支援センター クロバー	委託事業	—	兵庫県	

2. 理事・評議員関係

① 理事長交代

令和5年6月21日（定時評議員会まで）西尾 淳氏 理事長任期満了にて退任

令和5年6月21日 三原憲二氏 理事長就任

② 理事会・評議員会の開催

【評議員会】

開催日	出席者数			
	評議員	理事	監事	事務局
令和5年 6月21日	6	5	6	4
令和6年 3月25日	6	6	2	3

【理事会】

開催日	出席者数	
	理事	監事
令和5年 6月 1日	6	2
令和5年 6月21日	6	2
令和6年 3月 6日	6	1

3. 消費税（過年度修正）の支払いについて

こども家庭庁支援局障害児支援課、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課、厚生労働省社会・援護局障害保険福祉部精神・障害保健課から発出された令和5年10月4日付事務連絡、「障害者相談支援事業等に係る社会福祉法上の取扱い等について」の通知により、基幹相談支援センターを運営する事業、並びに、障害児療育支援事業、発達障害者支援センターを運営する事業（法人あかりの家が受託している事業の抜粋）については、福祉事業には該当せず、非課税扱の誤認ないように取扱うこと、となっている。これを受けて、社会福祉法人あかりの家で精査した結果、非課税扱いをしていた上記事業については、前5年間分を修正申告した。

① 2018年度から2022年度までの修正申告分

納税金額 : 17,331,700 円

延滞税納額 : 403,000 円

合計 17,734,700 円

【内訳】

年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	合計
修正申告消費税	4,155,000	4,237,700	1,225,000	4,563,600	3,150,400	17,331,700
延滞税	71,200	102,000	30,100	117,200	82,500	403,000
計	4,226,200	4,339,700	1,255,100	4,680,800	3,232,900	17,734,700

② 令和5年度消費税額

納付金額；5,893,600 円（内、相談事業委託料に係る分 約360万円）

4. 令和5年度補助金

・兵庫県/障害者施設原油価格・物価高騰対策一時金（3月）	1,453千円
・兵庫県/障害者施設原油価格・物価高騰対策一時金（10月）	1,437千円
・兵庫県/障害福祉サービス継続支援事業補助金	886千円
・兵庫県/ICT導入モデル事業補助金	742千円
・高砂市/相談事業委託 過年度分消費税補助金	6,330千円
・姫路市/相談事業委託 過年度分消費税補助金	355千円

5. 施設整備、備品購入関係（100千円以上）

	項目	サービス区分	内容	金額
1	土地	あかりの家	高砂市北浜町北脇字中山田 528 番地 (417 m ²)	504 千円
		〃	土地登記手続き	297 千円
		〃	北脇水利組合	75 千円
		〃	駐車場区画整備工事	165 千円
		〃	外灯増設工事	810 千円
		〃	駐車場整備工事	2,450 千円
2	車両	あかりの家	フリード (19-05) 中古車購入	1,497 千円
		あいあむ	N-one (9391) 中古車購入	901 千円
		ふたば	置き去り防止システム取付け	141 千円
3	備品	あかりの家	業務用全自動洗濯機	1,925 千円
		〃	エアコン増設 (厨房)	271 千円
		〃	エアコン増設 (女子脱衣室)	100 千円
		ワークホーム高砂	エアコン増設 (北川倉庫 2 台)	119 千円 124 千円
		ふたば	エアコン増設 1 階	278 千円
		〃	エアコン取替 2 階 2 台	122 千円 × 2 台
		つぼみ	エアコン取替	236 千円
4	修繕工事	グループの家	火災通報装置 ロムメッセージ変更	112 千円
		友愛の家	火災通報装置 ロムメッセージ変更	112 千円
		ワークホーム高砂	北側倉庫 勝手口・出入口修繕工事	111 千円
		あかりの家	空調機修理 1 階サロン	165 千円
		あかりの家	空調機修理 厨房	186 千円
		ワークホーム高砂	受水槽水漏れ修理工事	175 千円
		あかりの家	特定建築物点検による是正工事 (非常灯)	242 千円
		〃	〃 (庇破損部分修理工事)	165 千円
〃	消防点検に伴う是正工事	262 千円		

6. 職員配置数

令和 6 年 3 月 31 日現在

事業所名	あかりの家	児童デイ	希望山荘 日笠	ワークホーム高砂	納豆工房	あいあむ	クローバー	計
正規	38	2	6	8	6	7	4	71
嘱託	1	3	1	1	1	3	0	10
パート	7	1	7	7	6	1	0	27
計	46	6	14	16	13	11	4	110

※兼務カウントなし・主の従事する事業所のみでカウント

7. 求人活動

(1) 2024年3月新卒支援員等求人

① インターネット求人サイト「マイナビ」を活用

◇ 見学説明会参加者: 延 33人、採用試験受験者: 11人 (内、7名採用)

◇ 新型コロナウイルス感染防止のため、マイナビ主催の合同説明会等へは参加しなかったが、インターンシップや事業所説明会は今年度から対面の形に戻して実施した。(10回)

② 県知協主催就職フェアに参加(9月、明石)

③ 社協主催福祉の就職総合フェアに参加(7月・3月、神戸)

2023（令和5）年度 障害者支援施設 あかりの家 事業報告書

2024. 3. 31現在

I 沿革（主な実施事業）

事業名		事業開始年月日	
①	障害者支援施設あかりの家	'86(S.61). 4. 1	県指定
	施設入所 生活介護		
②	短期入所	'86(S.61). 9. 1	県指定
③	地域生活支援事業 日中一時支援事業(日中短期)	'07(H.19). 4. 1	6市2町委託事業
④	障害児等療育支援事業	兵庫県	'07(H.19). 4. 1 県委託事業
		姫路市	'08(H.20). 4. 1 姫路市委託事業
⑤	被虐待障害者一時保護支援業務	高砂市	'13(H.25). 6. 1 高砂市委託事業
		播磨町	'14(H.26). 4. 1 播磨町委託事業
		稲美町	'17(H.29). 3. 1 稲美町委託事業
⑦	強度行動障害地域生活支援事業	兵庫県	'19(R.元). 10. 1 県委託事業

- ＜他＞①グループホーム「希望山荘日笠」('02(H.14).10.1)「オリーブの家」('15(H.27).10.1)
「友愛の家」('17(H.29).4.1)の連携施設
②連携施設「友愛の家」('17(H.29).4.1)との一体的な運営
③附置施設「ひょうご発達障害者支援センター クローバー」('03(H.15)12. 1)
④高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.26). 11)
⑤日本自閉症スペクトラム学会 資格認定実習施設('15(H.27). 1)

II 利用者状況（'24年3月31日現在）

あかりの家利用契約者の分類（あかりの家独自の分類）

呼称		
あかりの家所属利用者	①入所者	日中は生活介護、WHに通う1名は生活介護と就労B併給（行政調整有）
	②通所者 生活介護	⑥通所 ⑦ロングショート等は、行政と調整の上、夜はショート、日中は生活介護で契約。あかりの家に所属。通所者として扱い、保護者会活動に参加。
あかりの家所属とはしない利用者	③ショート生活介護	ショートステイか日中利用者の内、有期の療育目的や定期的な日中利用等のケースは、行政と調整し、泊はショート、日中は生活介護などとして契約しているところは上の⑦と同じであるが、保護者会活動などに参加しない利用者は、あかりの家所属とはせず、「ショート生活介護」としている。
	④ショートステイ	泊を伴う
	⑤日中一時	日中のみ

以下のデータは、「あかりの家に所属」の、上記①、②の利用者を対象とする。

1 定員と現員 2024年3月31日現在

定員	現 員	
40名	施設入所	40名 (男31、女9)
	生活介護 (①+②)	48名 (男39、女9)

入所者 40 (男31、女9)、通所者 8 (男8、女0)
通所内訳 ; 自宅から2、GH 友愛の家から5、ショート系⑦1
内、入所利用者1名は、あかりの家の「生活介護」に籍を残したまま、日中は WH 高砂の「就労 B」
を利用。生活介護利用者は、48名とあるが、1日当たり40名を超えることはない。

なお、「ショート生活介護(③)」契約者はここではカウントしていない。3月末現在、該当契約者3人。

2 利用者出身地(受給者証発行市町) 2024年3月31日現在

実施機関	利用者数		実施機関	利用者数	
	入所者	通所者		入所者	通所者
高砂市	4	3	神戸市	11	
加古川市	13	1	尼崎市	2	
播磨町	3	1	名古屋市	1	
姫路市	5	1	枚方市		1
小野市	1		神河町		1
加東市	1		合計	40	8

左表ではカウントしていない、あかりの家に籍を置かない生活介護契約者(分類③「ショート生活介護」)
'24年3月末現在、3名(加古川市1、姫路市2)

3 利用者年齢 ()は、通所者で内書 2024年3月31日現在

年齢	10代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		合計 (人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~69		
男	0	0(1)	1(1)	2(1)	4(2)	2(1)	6	16(1)	6(1)	1	0	39(8)	
女	0	0	0	1	0	0	0	4	3	0	1	9	
合計	0	0(1)	1(1)	3(1)	4(2)	2(1)	6	20(1)	9(1)	1	1	48(8)	
(計)	0	1(2)		7(3)		8(1)		29(2)		2		48(8)	

最年少23歳、最年長69歳、平均49.8歳 (入所利用者平均年齢51.9歳)

4 障害等の程度 ()は通所者で内書 2024年3月31日現在

(1)知的障害の程度(「療育手帳」の判定による)

	重度(A)	中度(B ₁)	軽度(B ₂)	合計(人)
男	38(8)	1	0	39(8)
女	9	0	0	9
計	47(8)	1	0	48(8)
比率	97.9%	2.1%	0%	100%

(2)障害支援区分 平均支援区分 5.63

	区分6	区分5	区分4	区分3	合計(人)
男	29(4)	6(2)	4(2)	0	39(8)
女	5	4	0	0	9
計	34(4)	10(2)	4(2)	0	48(8)
比率	70.9%	20.8%	8.3%	0%	100%

(3)自閉症または自閉的傾向を有する者

	男	女	計
入所	30名/31名	5名/9名	35名/40名
通所	8名/8名	0名/0名	8名/8名
合計	38(8)人/39(8)人中	5人/9人中	43(8)人/48(8)人中
比率	97.4%	55.6%	89.6%

(4)重度加算

	入所		通所		総計
男	30人	96.8%	6人	75.0%	93.8%
女	9人	100%	—	—	

(5)その他の障害

		男	女	計	総計
肢 体	手帳所持	0	0	0	1
	不所持	1	0	1	

5 入退所の状況(あかりの家に在籍者)

	年度	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05
入 所	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
通 所	入	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	11	0	0	1	/	/	/
	退	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0	12	/	/	/
合 計	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	1	0	2	1
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	2	1

	年度	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	計
入 所	入	1	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	3	0	1	0	1	0	0	74
	退	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	0	34
通 所	入	/	/	1	0	1	0	2	3	0	1	0	4	1	0	0	0	0	1	26
	退	/	/	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	16
合 計	入	1	1	1	2	2	0	4	3	0	1	0	6	1	1	0	1	0	1	100
	退	2	0	1	1	2	1	1	0	1	1	1	3	1	0	0	2	0	0	50

※①2008年4月 新体系に移行し、通所利用者受入れ

②2013年4月より、あかりの家に籍を置く日中を生活介護契約の短期入所利用者等は、通所者として計上

- 6 在籍年数 (通所者を含む。通所から入所等への移行者は通算。4/1入所は翌年3/31で在籍満1年とする)
 全利用者平均在所年数26.4年 / 男子平均年数26.2年 / 女子平均年数28.4年
 入所者平均在所年数 30.4年 / 入所男平均年数31.0年 / 入所女平均年数28.4年
 通所者平均在所年数 11.6年 / 通所男平均年数 11.6年 / 通所女平均年数 一年

Ⅲ 生活の概況

1 日課(月～金)

6:30	起床、身支度等
8:00	朝食、歯磨き等
9:15	職員引継ぎ
10:00	ランニング、水分補給
10:30	作業
12:00	昼食、歯磨き等
13:30	作業
15:15	おやつタイム
15:30	入浴(毎日)・夕余暇
17:30	夕食、歯磨き等
18:30	夜余暇、就寝準備
21:00	就床

土日祝、ランニングや作業なし

非帰省日の土曜日にはクラブ活動実施

*昨年度はコロナ禍で中止

2 余暇活動

- ①夜の時間帯：絵描き、工作、パズル、雑誌、ドリル等の学習、トモニ100並べ、クロスステッチなど
- ②担当者による買物や散髪、作業工賃での自販機やコンビニでの買物、テイクアウトの購入など
- ③祝祭日や週末など、休日のドライブや散歩などの外出

3 療育活動

(1) 学習活動

2013年度より実施。当初はトモニ活動チーム4人を中心に活動。トモニ療育研修で、河島先生・高橋先生から教えて頂いたことを日常の中で実践。主に数字(100並べ、タイル並べ)、時計、お金、本読み、漢字、折り紙、書き取り等、月曜日と木曜日の午後に、マンツーマンでの課題学習を行う。

トモニ研修の一旦の区切りを迎えた中で、トモニ療育を知らない世代が増えてきている。そういった職員の学びの場として、今年度は中堅の職員3名を対象に、基本的な課題学習である100並べを週に一回実践してもらい、CSの再現の作成を通して学びを深めた。

(2) 料理活動

従来、トモニ活動の一環として料理活動を実施していたが、独立した活動としている。

あかり祭りや忘年会などの行事料理や、バレンタインデーなどのお菓子作り、休日の余暇活動の中での料理作りなどの活動をしていたが、今年度もコロナウイルスの影響で、活動を縮小してお菓子作りなどを行った。

(3) 体操活動

隔週土曜日 13:30～15:00に活動。ダイナミックリズムや模倣運動を中心に実施。療育的な意味に加え、職員育成、特に新人職員研修を狙っている。現場において集団全体を見る力をつける機会としても考えている。目の前で、利用者の変化を実感しやすい活動になっている。

今年度も当初はコロナウイルス感染防止の観点から活動を中止していたが、6月から再開。その後は月1～2回のペースで実施した。

4 クラブ活動

	参加者	実施状況	指導者	実施内容
華道	5人	月2回 隔週、土曜 午前1時間	松尾豊華 先生(ボラ ンティア)	92年10月開始。松尾先生(小原流家元)購入の花を先生指導のもと活ける。活けた花は玄関や交流ホーム、クローパー、事務所等に飾る。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)
音楽	8人 + 随時	月1回(8 月は休み) 土曜 or 日 曜 13:30～ 1時間	永江きよみ 先生(ボラ ンティア)	98年10月開始。音楽療法として「音楽の特性を生かして、心と心を響かせあう。」宮本啓子音楽療法を勉強中の永江先生が中心になって始まる。ダンス、歌、リズムなど体感するものや楽器等を通じて表現するものなど幅広い。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)
アート	3人	月1回 木曜日 午後1時間	安部武先 生(ボラン ティア)	99年1月開始。粘土、自由絵、また季節的な凧作り・面作りなどの創作活動を実施。高砂市美術展、洋画家連合会などに出品。交流ホーム1F(04.10より)をアトリエとして使用。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

5 行事関係

(1) 一般行事(スポーツ行事を含む主な行事)

月	行事名	月	行事名
5	のじぎくスポーツ大会(利用者7名・職員4名参加)	11	高砂マラソン(利用者4名・職員2名参加)
	ぱんたん親善運動会(スケジュールの都合で不参加)		加古川ツーデーマーチ(コロナの影響で不参加)
8	あかり祭り(従来の形とは異なり、利用者・職員でアップルパイを作り、保護者に提供)	12	第32回ナイスハートバザール(高砂アスパ)実施
			忘年会(利用者の年間行事のスライドショーを作成し、保護者が観賞)
10	一泊旅行(コロナ禍前の親子旅行とは形を変えて、全利用者を2グループに分けて職員とともに実施)	3	年始行事(1月予定分)として、うどんづくり会を実施

(2) グループ別小旅行「レインボーデイ」

小グループ(原則利用者2人に支援員2人)に分け、各担当の企画で県内外を日帰り旅行。「療育の成果を生活に返していく」趣旨で、公共交通機関(電車、バス)を使用して実施。身体に負担のかかる利用者等は公用車利用。(コロナ感染防止のため一定の制限のもと、実施。)

(3) あかり喫茶

帰省日のない金曜日午後、ボランティアグループ秋桜会(5、6人)の応援で、毎月実施。

随時グループで参加。写真で飲み物(コーヒーやジュース、コーラ等)を選び、ケーキ類も数種類から選ぶ。今年度も新型コロナウイルスの影響で年間を通じてボランティアの協力は得ず、内部で実施。

6 設定帰省等

保護者会の希望により、開設時から毎週末2泊3日実施。3年目途中より隔週2泊3日帰省に変更。その後、05年度より隔週1泊2日となる。原則、帰省は希望により自由、期末帰省を更に短くした。

2023(R5)年度は、夏季・冬季・春季の期末帰省は予定通り実施できたが、冬季帰省後に新型コロナウイルスのクラスターが発生した。また週末帰省は毎月1回程度のペースで実施した。

①週末帰省(月1回1泊2日原則) 2泊帰省4人程度、帰省なし15人程度

②期末帰省(夏季5日間、冬季7日間、春季5日間) 期末帰省なし16人

③オンライン面会(コロナ禍をきっかけに始めたが、今年度は帰省できない数名を対象に実施。)

IV 作業の概況

1 作業内容(月曜日午後、火曜日から金曜日の午前午後作業)入所40名 通所8名 計48名

(1) 施設内作業

割り箸班	10人	軽作業棟。割り箸の袋詰め等。 作業提供:(株)マスキ。
さをり織り班	6人	さをり作業棟。さをり糸(一部播州糸、帆布糸)を利用して反物織り。 製品化は、ボランティア「さをりの会」(保護者)や職員による。
余暇班	6人	1F サロン。個別活動(さをりの糸くくり、ビーズアート、塗り絵、厨房お手伝い(野菜の皮むき)。
軽作業班	12人	軽作業棟。コイルから銅線の巻取り、リサイクル作業。 作業提供:(有)ハタリサイクルファクトリー。
プラグ班	9人	さをり作業棟で開始。電気部品組み立て。(コンタクト、ロックレバー、端子台、受け金、ホルダーなど) 作業提供:(有)米田製作所。2013年6月～
マスキ班	4人	あかりの家地域交流ホーム。割り箸袋詰め等の作業

(2) 施設外作業

WH高砂	2人	WH利用者として、クリーニング作業に従事。1人が毎日車で送迎(就労継続B型)、もう1人が週2回グループホームより通所(生活介護)
------	----	--

2 作業班編成(利用者編成)

利用者の高齢化および体調面への配慮、また作業ノルマや作業種別に応じて作業メンバーをその都度変更。体調面への配慮としては、利用者個別判断が必要であり、暑さ、寒さ、アレルギー等への配慮を考えつつも、より利用者が意欲的に活動できる作業・活動を考え実施している。

3 福祉バザー、作業製品展示・販売等

12/3	社協ふれあいフェスタ	高砂市文化保健センター	さをり織り商品の販売。
12/9.10	第32回 あかりの家 ナイスハートバザール	イオン高砂	さをり織り商品の販売。利用者によるさをり織りの実演と見学を再開。

4 作業収入と工賃支給（2024年3月末）

作業収入：計 592,479 円…内、工賃支給；計 375,400 円、作業関係支出：計 204,716 円

作業工賃：1人 9,000 円／年支給。余暇班のみ 4,000 円／年

※今年度は、コロナクラスターの発生による作業実施日数の減少、更には世界的物資の調達困難、原油価格高騰により作業の供給量が大幅に減少した。そのため、作業収入も大きく減少し、作業工賃についても昨年度から大幅に減額となる。

V 健康管理

1 入通院の状況（特記事項）

通院

2023. 9月 両側尿管結石 10月 左足小指骨折 11月 腰椎圧迫骨折
2024. 1月 逆流性食道炎 3月 腸閉塞疑い

入院

2023. 4月 細菌性肺炎(5日間) 2024. 3月 腸閉塞(11日間)

コロナ感染者

2023. 5月 3名 7月 1名 9月 1名
2024. 1月 17名(クラスター)

2 常用服薬者

		男	女	計
精神科薬	てんかん	16	3	19
	安定剤・眠剤等	21	8	29
内科系薬(整腸・肝臓・貧血、便秘等)		25	9	34
皮膚科系薬(水虫・湿疹等)		18	5	23
整形外科系薬(Ca剤・骨粗しょう症等)		3	2	5
眼科系薬(アレルギー)		9	0	9
延べ総計(2重カウントあり)		92	27	119

内科系では、25 人が便秘薬を服用。

3 健康診断・身体測定等

月	実施内容	月	実施内容
4	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)	10	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)
5	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)	11	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)
6	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)	12	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)
7	体重測定、歯科検診(歯石除去、歯磨き) 健康診断(職員、利用者)	1	体重測定、歯科検診中止
8	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)	2	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き) 夜勤者宿直者健診
9	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)	3	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)

健康診断；R6年度から利用者健診も年2回に変更予定。2回目は夜勤者宿直者健診時に実施予定。

4 ランニング

月～金、朝の引継ぎ後(作業前)、10時頃から、準備体操、ランニング、水分補給を実施。ランニングが負担になる人は、運動場をウォーキング。夏季は、気温が高くなる為、準備体操、ランニングは中止している。(熱中症対策の為)

5 ウォーキング班・ダイエット班(企画日課)

班活動としては休止。ただ、随時ウォーキングマシンを利用したり、裏山のぼりは継続している。

6 整体(健康・医療の方向から)

毎週木曜日、居室にて13:30から1名10分～15分程度、腰痛の人や筋緊張の高い人など

を中心に6人が、永田先生(柔道整復師)にマッサージをしてもらっている。(Ⅶ1の(5)参照)

今年度も当初はコロナウイルス感染防止の観点から活動を中止していたが、6月から再開。その後は月1~2回のペースで実施した。

- 7 その他 11/20インフルエンザ予防接種。1月インフルエンザ罹患者1名、帰省時に罹患したと考える。また今年度も、ノロウイルスに感染することはなかった。

Ⅵ 支援部(医務・厨房含む)からの年度総括

<支援部>

1 利用者関係

(1) 入所・通所利用者

・高齢化が進む中でこれからの課題となっていた日中の活動について、新しく余暇活動班(余暇班)を創設。仕事とは違う『趣味』、『特技』を見出すような活動を模索しながら活動を行ってきた。他作業班の補助活動、散歩などの軽運動、ビーズアートや塗り絵などの趣味的活動、あかりの家厨房のお手伝いとして野菜の皮むきなどを行った。

・コロナ感染症の5類移行に伴い、外出の制限を緩和し、休日の外出、美容院や買物の外出なども行うようにしてきた。また、連休などではグループ別の日帰り小旅行や前庭でのBBQ、お菓子作りなどお休みの日を楽しめる活動なども行ってきた。秋の旅行も再開。形としては、利用者と職員だけの旅行を行った。旅行会社を通さずに、担当職員が日程、宿泊先、活動などの準備をすべて行うようにし、緩やかな対策を意識した旅行を行うことができた。

・5月、1月にコロナ感染症が広がりクラスターとなった。体の弱い利用者の感染もあったが、重症化することなく、無事に乗り切ることができた。

・骨粗鬆症、嚥下や咀嚼、高齢化への介護的な支援が徐々に必要となってきた。

(2) 強度事業対象者

・2023年度強度事業として2名を受入れ。2名共に受け入れ前より、状態は改善され、家庭や地域の事業所でも安定した生活を送られている。そのうちの1名は、今後、月2回程度、あかりの家のショートステイ利用もあるので、状態把握しながら、その都度、必要な支援、家庭へのアドバイスを行っていく。

2 職員関係

(1) 組織を育てる

部会組織の運営方法を変更した。5部会に編成し、部会に所属する職員を置く“部会担当”という形で運営。4、5名の部会組織の中に主任支援員を部会長として配置し、その元に職員を配置。役割分担や報告・連絡・相談、検討協議などを迅速に行えるような組織にし、受け身的な仕事ではなく、考えて作り出す仕事を行うようにした。新たな形になったことで、当初は不満、不安の声はあったが、1年を通して活動する中で、各部会が個性的な組織となって責任を持ちながら活動できるまでになった。

(2) 職員を育てる

2Fは、昨年度と方針同じく、若手職員(3年目以下)をどう育てていくかということテーマに取り組んだ。具体的には、療育研修での発表に向け、取り組み(利用者支援)を継続していくこと。3年間継続して取り組んだことは、昨年度同様に大きな収穫であり、職員の成長に繋がっている。

1Fは、1名の新任職員が早期に退職をしてしまい、職員の人数が少なく、ベテランと若手職員という二層構造の組織となっており、指導する、されるという組織構造のまま、育てていくだけの余力を作ることができず、日々の利用者の生活維持が精いっぱいになっていた。しかし、育休明けの職員2名、嘱託職員1名の加入により、精いっぱいの中でもなんとか1年間を乗り切ったという状況である。

(3) 夜勤・宿直回数の制限による働きやすい環境、利用者支援の連続性作り

夜勤や宿直が週の中に2度あるという状況が数年続いており、その身体的な負担に不安の声が上がっていた。また、夜勤や宿直の回数が多いということは、日中の利用者支援の回数が少な

いということでもあり、日中の活動の充実の弊害になっていた。回数を週に1度程度(月に4回)にするようにし、負担感の軽減や支援の連続性ということを大切に運営を行った。

3 今年度の総括

- ・部長の交替という大きな組織改編があった。その交替だけでも大きな混乱は起こりそうであったが、逆にそこを変えていくための機会ととらえて、部会組織や働き方についての具体的な展開を行った。そのことで、それぞれの職員が自分の責任を意識し行動するようになり、業務的な滞りも少なく、かつ、利用者支援にも影響を及ぼさずに活動ができた。
- ・利用者の高齢化が進んでいる。健康維持や認知機能低下予防などが現場の中でも語られることも増えており、職員の実感として現実的になってきている。これまでの支援に加える形で、余生であったり意識した生活支援を検討していく時期にきており、課題として今後も考えていく。

< 医務室 >

1 健康診断(年1回)

再検が必要な利用者には協力医院である井野病院で、血液検査やCT検査、心電図等を受け、結果は必ず保護者に説明している。

今年度は、肝機能障害6名(てんかんの薬の影響や経過観察)、脂質異常2名(大きな異常なく、経過観察)、心電図異常3名(大きな異常なく、経過観察)、貧血8名(うち2名内服、1名注射治療中、他は経過観察)であった。

2 日々の健康観察

丁寧な健康観察は、利用者の体の変化に早く気づき、回復を早める。また、園内感染も最小限に防ぐ。新型コロナウイルス感染症対策として、体温測定回数1日4回を継続し異常の早期発見に努めた。

3 新型コロナウイルス感染症予防

新型コロナワクチンは1名のみ3回接種まで、他の利用者は6回目まで接種済み。

新型コロナウイルス感染症対策として、手洗い、消毒、換気やマスク着用の徹底に全職員で取り組んでいる。

しかし、1月帰省明け～月末にかけて新型コロナウイルス感染のクラスターが発生。利用者17名、職員11名が感染した。

R5年5月13日、昨年度に続き、感染症対策研修を実施し、知識を周知できるようにした。

4 歯科検診

園でも朝、昼、夕の食後には一人ひとり丁寧に歯磨きを実施している。

毎月実施していた歯科検診は1月のみコロナクラスターの為中止した。治療が必要な方は通院し、異常が起きやすい方は日々の歯磨き強化をしてもらうなど、口腔内の健康維持に努めた。

5 痔、腰痛対策

痔対策は予防としての便秘対策も含め、悪化防止に努めていく。腰痛の方も数名通院したが、現状、治療はないため予防に取り組んでいく。(冷やさない、正しい姿勢の保持等)

6 骨密度測定実施

今年度は骨折者が2名。うち骨粗鬆症を指摘された方が1名。今後も加齢に伴って増える可能性がある。異常がない方も定期的に骨密度を測定して、予防に努めていく。

骨粗鬆症治療中(注射や内服薬)の4名に関しては、定期的に骨密度測定を実施し改善傾向である。

7 排便対策

精神科の薬を内服している方が多いため便秘が多い。利用者によっては便秘薬を内服しても排便がない方、薬の効きすぎで下痢になる方もいる。便秘や下痢はQOLの低下につながるため、毎日排便記録をとり、便秘や下痢の際は主治医の指示の範囲内で薬の増減を行った。

8 血圧

支援員の協力を得て、血圧に異常がない方も順番に2週間ずつ血圧を測定している。そのおかげで前年度は1名の血圧異常を発見し、通院・治療へつなげることができた。今後も加齢に伴って増えてくる可能性があるため、他部署の協力を得ながら早期発見につなげていく。

9 飲水量の見直し、調整

浮腫がみられる利用者が通院した際、飲水量が多く、加齢に伴って心臓に負担がかかる可能性があるとの指摘を受けた。

このため4月からコップを変更する等して飲水量を1日2, 5～3リットル→1, 5～2リットルになるように調整した。

<厨房>

1 令和5年度施設目標

「利用者個々の健康維持増進に配慮した安心で安全な給食提供」

2 実施内容

(1) 年間実施食数

	利用者	ショート	友愛	職員	総食数
全月計	55,692	3,537	4,030	6,177	69,436
月平均	4,641	294	335	514	5786

(2) 栄養ケアマネジメント

対象者	実施期間	モニタリング実施
利用者 40名	通年	6月、9月、12月、3月
低リスク 40名	中リスク 0名	令和5年度計画変更者 0名

(3) 衛生 ①東洋産業害虫駆除 毎月1回

②消毒年3回、検便毎月1回

(4) 防災 ①自主点検 終業時毎日実施

②災害用（非常食・飲料水・備品・ディスプレイ容器）外倉庫に備蓄

(5) その他 価格調査2月実施

3 業務取り組み内容

①行事食（秋祭り、年明け行事、節分、ひな祭り等）

②手作りおやつ（毎水、日曜日提供） ③栄養ケアマネジメント ④厨房会議（月1回）

⑤給食会議（8月、12月、3月） ⑥災害食提供訓練（11月） ⑦お楽しみメニュー

4 総括、今後の課題

- ・事故報告 髪の毛の異物混入が1件あり、目視をしっかりと再発防止に努める。
- ・利用者さんの水分の摂りすぎにより、湯呑を小さいものに替え、水分量の調整、夏場は塩分量を増やす等利用者さんの健康維持に努めている。
- ・コロナ感染のクラスターが長期となり、厨房職員も3名感染で人員不足時は外注のお弁当を取り入れながら提供させていただいた。
- ・今年で3回目の厨房職員の災害食訓練は、各自の意識が高く積極的に意見を出したり、取り組み方に成長を感じた。
- ・コロナ感染により行事の延期もあったが、お楽しみメニュー、行事食も担当者が主になり意見を出し合いながら、新しいジャンルに挑戦したり、利用者さんにいつもと違う食事も楽しんでいただけた。
- ・監査で災害時に厨房職員がいない時の対応、給食会議の議題を上げる等の指摘があったので今後取り組んで行く。
- ・後期より管理栄養士1名産休のため4人体制となったが、他部署にも助けていただきながら、スピード、効率良く、声を掛け合いながら頑張っている。
- ・食材に限らず全般の価格が上がり厳しくなっているが、節約、工夫も厨房全体で取り組み、来年度も利用者さんの健康維持に努めていく。

VII 職員研修

1 支援員研修

(1) あかりの家法人事例研究会(6月11日(日)10時~12時)

講師(助言者): ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授
インクルーシブ教育研究センター長 青山新吾先生

【開催趣旨及びテーマ】 (※今年度も法人全体での研修として実施)

ASD(自閉症スペクトラム障害)の人たちの支援には「生涯援助」の視点が欠かせない。

「自閉症総合援助センター」は各ライフステージに沿って、あるいはその時々々の状態や状況に応じて、高度な専門性と総合的で多様なニーズに対応するために必要とされる、総合的な援助体制である。(社福)あかりの家では、2016年の設立30周年を機に自閉症総合支援センターを標榜し、総合的支援を推進している。

この事例研究会では、ASDの人たちへの自分たちの実践の共有を深め、希望ある次世代の育ちの場(その為に先輩も力を高める)として、また法人内の事業所間連携による丁寧な利用者支援を図ることを目的として開催した。今年度のテーマは「働く」である。

(2) 学習会・相談日(嘱託医平井先生による。週末帰宅の土曜日午後3時間の支援員研修)

①	4/22(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
②	6/17(土)	平井 Dr.	クローバー
③	7/8(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
④	8/19(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑤	9/16(土)	平井 Dr.	クローバー
⑥	10/14(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑦	11/11(土)	平井 Dr.	クローバー
⑧	12/16(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑨	2/17(土)	平井 Dr.	クローバー
⑩	3/9(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談

(3) かくたつ療育研修 (2000年10月開始)

スーパーバイザー: (有)かくたつグループ代表取締役 片倉厚子先生

① 第1回 10/29 リモート研修

・「自立に向けた支援」をテーマに1Fが発表

② 第2回 2/18 ハイブリッド(対面、リモート並行型)研修

・「2、3年目の育ち」をテーマに2Fが発表

※外部参加: 三気の家、三気の里、麦の子会

事前に資料を作成し片倉先生に送付。当日、ケース会議を行い、日常の支援に活かすポイントやエッセンスを学ぶ。その後、利用者把握で参加できなかった支援員に参加者から説明。

研修終了後、各支援員は「研修を終えて(療育のポイントと感じたこと等)」のレポートを提出。後日、片倉先生から質問等に対するコメントをいただく。

リモート形態を使って、麦の子会研修、三気の家、三気の里の研修にも参加している。

(4) トモニ療育研修 (2010年11月開始)

2010年11月、トモニ療育センター(愛媛県)河島淳子先生・高橋知恵子先生を、講師招聘内部研修としてお招きしたのをきっかけに、2011年よりトモニ療育研修として実施してきた。

2020年、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、2年連続での見送りは避けたいとの思いで河島先生に「オンライン研修」を依頼。しかし、「リモートでは、本当に大切な所が伝わるとは思えない」との返事を頂き、更に「一応完結している。十分にやってきた」「これからは皆さんが本物になっていく」とのお言葉を頂き、一つの区切りを迎えた。

2023年度についても研修としては動きはなく、前述した学習活動のレポートに対してのコメントや助言を行ってきた。

(5) 整体(研修の方向から)

<経過> 2007,2008 年度の講師招聘研修に来ていただいた永田雄三先生(柔道整復師)の往診(毎週木曜日午後)を、職員研修として位置づけ。2017年度には、事例研究会でも整体を取り挙げ、支援部全体に整体の知識を学ぶ機会があった。利用者が生活しやすいようになるための身体の動かし方や日常に取り入れられる働きかけのノウハウや、そのヒントを得る。そして、それを各担当者や各フロアにつなげ、実践していく。利用者との関わり方を広げる、関わり方の知識をつけるために、若手職員(1～3年目)を中心に学ぶようにしている。主に担当ケースを取り上げて診てもらいつつ、学んだことを現場でも活かせるように係から話をしている。

<今年度> 当初はコロナウイルス感染防止の観点から活動を中止していたが、永田先生と相談し、6月から再開した。整体の係の職員の中には、整体に未だ参加したことのない職員もいたため、レクチャー含め、整体の係でない若手職員にも整体の意義と身体への触れ方を学んでもらった。

(6) 中堅職員研修

2020年に作成された“あかりの家キャリアパス”を基にしながら研修を展開した。

今年度も中堅層に求められる役割をおさえつつ、中堅職員が主となって企画・発表する学習会(嘱託医の先生を招いた勉強会)を実施した。昨年度から大きなメンバー変更はなく、自分たちで考える仕組み作りや、期限を設けて取り組みを組み立てて評価する流れを昨年度同様に実感してもらった。それぞれに中堅としての役割意識が一定程度定着したと評価している。

(7) 虐待防止・身体拘束適正化研修

法人の虐待防止・身体拘束適正化委員会の企画として、“自分の支援を振り返り共に語ろう”をスローガンに、グループワークも含めた研修会を実施した。

内容としては、始めに関西福祉大学教授 谷口先生から「虐待防止の視点」というテーマで講義をいただき、近年の取り組みも踏まえてグループでディスカッションし発表するという形で行い、成果を日常の支援に活かしていくことを目的としたものとした。

(8) 出張研修 (主なもの、オンライン含む)

月	研修内容(実質研修期間)
3	県知協・強度行動障害 SV 養成事業実践報告会
11	三気の家・三気の里・麦の子会合同 かくたつ研修
1～3	強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)
1	サービス管理責任者研修
12	全日本自閉症支援者協会神奈川大会
2	サービス管理責任者更新研修

2 新任職員研修(支援員)

(1) 内部研修 (新任研修プログラムによる年間研修)

月	研修内容
4	各部署レクチャー実施(部長、事務、医務、調理、防災、各作業班、給食保険衛生部会長レク)。先輩職員から勤務形態に応じてレクチャーを実施。
5	“基礎体力をつける”のレポートを提出。
6～3	保護者通信「あかりっこ」作成(新任支援員で持ちまわり)
8	期末レポート(自分の課題と質問)
6～2	課題レポート
10	青山先生のDVDを見る。レポート作成。
12	期末レポート(自分の課題と質問)
2	相談日実施
3	新任研修終了レポート(学んだこと、これからの意気込み)

3 保健衛生関係研修(主なもの)

月	研 修 内 容	研修地
5	感染症対策研修(講師：高砂市民病院感染管理認定看護師 中島先生)	あかりの家

4 運営・管理・経営・事務的な研修(主なもの)

月	研 修 内 容	研修地
5・2	安全運転管理者講習会	姫路
9	県経営協・会計実務担当者研修(税務編)	神戸
7	兵庫県給食施設協議会研修会	神戸
11	社会福祉法人研修会	神戸

5 自己啓発研修

通信講座1件、研修会参加2件、図書購入1件、『さぼーと』購読補助5人

VIII 地域交流

1 ボランティア

- (1) 音楽クラブ指導(永江先生) 月1回 帰省日でない土曜または日曜日
- (2) 華道クラブ指導(松尾先生) 月2回 土曜日午前
- (3) アートクラブ(阿部先生) 月1回 木曜日午後
- (4) あかり喫茶(秋桜会 5人程度) 第3又は第4金曜日午後、月1回利用者用の喫茶店実施
- (5) さわり織り製品化ボランティア(あかりの家保護者、元利用者の保護者、ショートステイ利用者の保護者) ※上記(1)～(5)すべて、新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止

2 地域交流ホームの開放、地域行事への参加等

- (1) 地域障害児者の和太鼓練習 ⇒ 新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止
- (2) その他地域行事への参加については、「**III**生活の概況・5行事関係」で記載。

3 広報

(1) ホームページ

新HP(3代目)2013年7月18日にアップ。新HP開設後、カウンター数の追跡が出来ていなかったが、2015年5月18日(月)に内部カウンター設置。

2017年2月28日(火)にスマートフォンで見れるようにサイトを変更。また、同時に記事の更新方法をWordプレス形式に変更し、更新作業を簡易化した。

近年、職員募集に果たすHPの役割が、ますます重要になっている。

今年度、ホームページの更新について検討したが、引き続き課題として残っている。

(2) 発刊物等

	発行月	発行部数	配布対象
保護者通信「あかりっこ」 No.401～ No.410	毎月	各 100 部 延 1,000 部	保護者、法人役員・評議員、後援会役員、採用内定者、ボランティア等
「あかりだより」No.33	8月 (年1回)	600部	法人利用者保護者・職員、後援会員、地域関係施設・全自者協施設・関係機関等

(3) 展示・出展

展示、販売 (「P.6 **IV**「作業の概況」の「3 福祉バザー、作業製品展示・販売等」参照)

4 あかりの家施設見学受入・・・7件18人(内、県外 1件3人)

PTA・保護者		福祉事業所 関係		教育・保育 関係		行政・議員 関係		地域関係者		当事者	
件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人
		2件	8人	3件	6人	2件	4人				

Ⅷ 地域支援

1 障害児等療育支援事業

(1) 兵庫県

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支援事業	10	40	自閉症	8	31	重度	8	28
			知的障害	0	0	中度	1	4
			重症心身	0	0	軽度		
			身体障害	0	0	その他	1	8
			その他	2	9			
施設支援指導事業	9	43	生活介護・就B他	3	15	施設支援指導事業	9	43
			地域活動支援センター	1	4			
			学校・保育園	5	24			
合計	19	83	合計	19	83	合計	19	83

福祉圏域	人・施設	件	利用理由	件
東播磨	18	76	療育相談	83
その他県内	1	7	療育援助	0

(2) 姫路市

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支援事業	0	0	自閉症	0	0	重度	0	0
			知的障害	0	0	中度	0	0
外来療育等支援事業	0	0	重症心身	0	0	軽度	0	0
			その他	0	0	その他	0	0
施設支援事業	10	55	生活介護・就B他	8	51	施設支援事業	10	55
			グループホーム	1	2			
			その他	1	2			
合計	10	55	合計	10	55	合計	10	55

* 2023(令和5)年度より、姫路市の障害児等療育支援の内訳が、施設支援のみに変更。

市町	人・施設	件	利用理由	件
姫路市	10	55	療育相談	55
			療育援助	0
			その他	0
合計	10	55	合計	55

2 短期入所(介護給付) 33人 延 917日

利用形態		障害種別			男女・児者		市町					
形態	日	種別	人	日		人	市町	人	日	市町	人	日
介護給付	917	自閉	32	907	男	28	高砂	2	62	神戸	2	20
私的契約	0		97%	99%	女	5	加古川	12	220	尼崎	2	26
		知的	1	10	児者	0	播磨町	0	0	宍粟	0	0
			3%	1%			稲美町	1	10	赤穂	1	19
		難病	0	0			明石	0	0	神河町	1	6
			0%	0%			姫路	10	202	県外	2	352
計	917	計	33	917	計	33				計	33	917

3 日中一時支援事業(地域生活支援事業) 28人、延206日

利用形態	日	種別	人	日	男女、児者	人		人	日
地域生活支援	206	自閉	24	208	男	21	高砂	5	39
			89%	97%	女	6	加古川	13	85
私的契約	0	知的	3	6			明石	0	0
			11%	3%			播磨町	0	0
		その他	0	0	児	3	稲美町	0	0
			0	0%	者	24	姫路	9	90
計	214	計	27	214	計	27	計	27	214

4 被虐待障害者一時保護支援(高砂市と播磨町・稲美町と契約) 実績なし

5 講師、発表、寄稿等

兵庫県	令和5年度強度行動障害支援者養成研修	基礎研修	1月・2月・3月	講師・演習補助	施設長 支援部長 支援課長
		実践研修			
行動援護従業者養成研修(NPO法人ぱれっと主催;神戸市)			10月	講師	

6 関係団体等への役員や職員派遣等 ※()は法人内別事業所職員

全日本自閉症支援者協会		理事	19.7~	
兵庫県自閉症協会		役員	20.4~	
神戸市自閉症協会		顧問	20.4~	
播磨地区 職員代表者会		スポーツ委員	22.4~	
播磨町	播磨町障害者福祉施策推進協議会	委員	20.4~	
	播磨町地域自立支援協議会推進会議	委員	20.4~	
稲美町	地域自立支援協議会	委員	20.4~	
高砂市	自立支援給付等審査会	審査委員	20.4~	
	地域自立支援協議会	全体会	構成員	20.4~
		運営会議	委員	20.4~
		くらし部会	委員	19.4~
		子ども部会	委員	14.4~
	障害福祉計画進捗評価会議	構成員		
高砂児童学園運営懇話会		委員	'19.11~	
社会福祉法人 トリトン		評議員	16.3~	
社会福祉法人 常寿会		評議員	17.4~	

7 強度行動障害地域生活支援事業(県単事業:あかりの家指名委託) 2019年10月~

緊急に支援の必要が認められる在宅の強度行動障害者を、短期から中期間集中支援し、再度地域生活に戻る仕組みを構築するとともに、地域での受け皿ともなる事業所の支援員スキルを向上させ、ひいてはこれら障害者の安定した地域生活を実現させることを目的とした事業

【事業実績】①対象者の受け入れ ・人数:2人(男性)、・延べ日数:152日

i) 令和5年9月27日~令和5年12月27日 (92日)

ii) 令和6年2月1日~令和6年3月31日 (60日)

②通所施設等の支援者研修受け入れ・直接支援 2事業所5人・延べ日数:26日

③その他 関係事業所や保護者への支援、見学受け入れ

【集中支援協議会】

①第1回:(開催日)7月20日、(場所)兵庫県民会館、(出席委員)6名

②第2回:(開催日)10月24日、(場所)ひょうご女性交流会館、(出席委員)8名

8 実習受入(見学は前章の5参照)

(1) 発達障害支援SV養成研修・実務研修(12月に岡山県の事業所管理者1名受入)

(2) 学生、特別支援学校等教員、施設・事業所支援員・・・件、人、延日

社会福祉支援実習(社会福祉士受験資格)	1件	1人	延23日
保育実習	1件	2人	延20日
介護等体験(教員免許必須実習)、現任訓練	0件	0人	延0日

9 福祉避難所・・・高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.2).11)

X 個別支援計画・苦情解決

1 個別支援計画

前期と後期の年2回作成。(前期はコロナウィルス感染防止の観点から保護者との懇談は中止としたが、後期は実施し支援計画の説明を行った。)2020年度より、期間を1期を3/1~8/31、2期を9/1~2/29としている。

2 サービス苦情解決(障害者支援施設、短期入所事業)

苦情受付担当者	中西 多美 (サービス管理責任者)
苦情解決責任者	坊垣 勝彦 (あかりの家施設長)
第三者委員	川本 知代子 (あかりの家 評議員) 高尾 剛一 (元高砂市福祉部次長、あかりの家前監事)

期末休み明けに「休み中の生活の様子」を聞き取る。その際「あかりの家への要望」等の項目を設定し、聞き取っている。今年度、2件「あかりの家への要望」等を取り上げた。

<受付事例>

支援に関する内容(生活支援に関すること・長期休みの短縮希望など)

外部からは、コロナ禍による短期入所・日中一時事業の受け入れ縮小に対するの要望など

XI 虐待・防災・安全・衛生

1 虐待防止

(1) 法人虐待防止委員会

5回実施。施設単体での検討ではなく、法人として組織的に幅広く、これからの法人が進んでいくべき方向を検討している。また、2月に法人内事業所で発生した不適切な利用者支援についての協議を行い、当該事業所だけでなく、我が事として事象を検討するようにしている。

(2) 虐待防止マネージャー連絡会

法人内各部署からマネージャーを招集し、年4回開催。具体的な虐待防止活動を企画、運営している。12月に虐待防止啓発週間(12月1日~15日)を定め、ヒヤリハット報告の運用推進を行い、また、関西福祉大学の谷口先生を迎えての研修を実施した。

(3) 「身体拘束記録」での、記録と報告。「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」として、尿カテーテル使用者1人に3か月ごと作成、保護者に提示説明。

(4) ARS再検討委員会の設置

これまで作り上げてきた「あかり療育スタンダード」に息を吹きかけ、自分たちの財産として残していく為、①共通確認②知識最低基準③療育検討④虐待防止⑤キーワードをARS5本の柱とした。本年度は、部会組織の改編により、ほとんど活動ができず、課題として残った。

2 防災：3月にBCP(業務継続計画)を策定。事務所内に常設している。

(1) 防災訓練

①避難訓練

8/22消火訓練、12/20避難・通報・消火訓練、3/24避難・通報訓練(夜間想定)

※今年度も高砂消防本部を要請しての避難訓練はなし(新型コロナウイルス感染予防の為)。

②新任レクチャー(4月に実施)

火災時の対応・避難訓練の説明・消火器、散水栓の取り扱い方などを説明

(2) 消防自主点検 (日常) 毎日実施、(定期) 年2回程度実施

(3) 業者委託点検等

a 消防用設備等(スプリンクラー設備、非常動力設備、自動火災報知設備、消防機関に通
報する火災報知設備、誘導灯及び誘導標識、消火器具) 年2回(7月、2月)点検

b 特殊建築物等定期調査 → 有 c 水洗機、ガス式乾燥機点検 → 有

d 自家用電気工作物(高圧受電設備)保安管理 2019年10月1日から毎月1回点検
→ 11/19 点検で電灯回路が絶縁不良 業者依頼済み(資材調達が難しく、令和6年5
月に修繕工事予定)

(4) 電気設備の安全調査(加古川地区電気安全調査センター) → 有(R6.2.2)

(5) LPガス設備保安点検((有)保安センター東播) → 無-

3 交通安全

(1) 車両管理: 担当者により点検

(2) 無事故・無違反運動「チャレンジ100」(10/1~1/8)(県全運転管理者部会等共催)に1
4年連続14回目の参加。2チーム(1チーム10人、計20人参加)編成し、2チームが無事故・
無違反を達成し、表彰を受ける。

(3) 安全運転管理者等講習会 5/19 , 2/19 出席

4 衛生

(1) 貯水槽清掃 8月14日業者にて実施

(2) 合併処理浄化槽関係 ①合併処理浄化槽業者点検 年24回(毎月2回)実施

②(社)兵庫県水質保全センター検査 8/1「適正」

XII 総務関係

1 職員構成(あかりの家)('24. 3. 31現在)

		施設長	副施設長	支援員	看護師	事務員	栄養士	調理員	計
常勤職員	男	1	1	10					12
	女			16	2	4	2	3	27
現員	計	1	1	26	2	4	2	3	39
非常勤				6	1	2			9
計		1	1	32	3	6	2	3	48

2 職員年齢構成('24. 3. 31現在)

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	総計
常勤	男	8	4	4	1	1		18	39
	女	5	6	6	1	3		21	
非常勤			2	3	2	2		9	9
総計		21	12	13	4	6		48	48

※ 常勤職員平均年齢37.4歳、常勤生活支援員平均年齢32.8歳

3 資格取得の状況(常勤職員: 延人員)

サービス管理責任者(3)、社会福祉士(4)、介護福祉士(1)、介護支援専門員(1)、保育士(5)、
知的障害援助専門員(1)、教員(4)、幼稚園(2)、臨床心理士(1)、公認心理師(1)、児童指導員(2)
看護師(3)、管理栄養士(2)、栄養士(2)、調理師(4)、防火管理者(1)、特定社会保険労務士(1)

4 衛生委員会(2016.9.1発足)

委員会: 毎月1回開催(年12回実施)

委員: 統括管理者(施設長)、産業医、衛生管理者(事務局長)、看護師、支援員(改善委員会
担当)

主な議題: 時間外労働の実態報告、職員の健康診断、感染症対策、作業環境について等

2023（令和5）年度 児童療育支援センターあかり 事業報告

2024. 3. 31現在

1. 事業の体制

児童療育支援センターあかりとして、以下、2つの事業所を運営する。

児童デイサービスふたば（児童発達支援、放課後等デイサービス） 定員10名

児童デイサービスつぼみ（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援）

定員10名

2. 事業の状況

① 契約状況(令和6年3月29日現在)

	児童発達支援	放課後等デイ	保育所等訪問	合計
児童デイサービスつぼみ	5名	30名	12名	47名
児童デイサービスふたば	17名	21名		38名
合計	22	51	12（児発重複）	73名

保育所等訪問支援利用児童は、児童発達支援と併用利用（9名）。（児発＋保育所訪問）

児童療育支援センターあかりとして、契約している児童の総数は、73名

② 事業実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
つぼみ	放デイ	116	117	122	128	118	126	113	116	98	101	111	119	1385
	児発	25	31	26	31	30	27	30	29	24	24	23	26	326
	保訪	6	9	8	9	4	8	9	5	7	8	9	10	92
ふたば	児発	62	60	62	71	67	64	60	59	66	62	63	72	768
	放デイ	58	60	62	73	62	62	59	55	64	56	61	67	739
合計		267	277	280	312	281	287	271	264	259	251	267	294	3310

単純にのべ人数として（令和4年度）3060名→（令和5年度）3310名

3. 研修等

① 研修

- i) 虐待防止研修会：12月2日（土）生石研修センター
- ii) 外部研修：運転管理者等管理研修（2月）
- iii) 講師派遣：NPO法人パレット 行動援護従事者養成研修（10月）
播磨町保育士キャリアアップ研修（10月）

② 地域支援

高砂市内小、中学校の訪問支援、関係者会議多数実施。

4. 年度総括

2事業所を一体的に運営する児童療育支援センターあかりとして、2年目。

開設当初から現場責任者として勤務していた福原が支援部へ異動（兼務）し、尾崎課長を副センター長に迎えての新しい体制でのスタートとなった。陣容の変更があった中で、必要なことについては継承しつつも、新しい体制の中でできることを作り出し、これまでの積み上げを維持することを目標にしながら進めてきた。中心的に動いていた職員の異動による混乱やバランスの崩れはあったが、1年通して何とか事業運営できたと評価できる。

事業実績については、中期的目標にしている実績増の目標に迫る受け入れができ、のべ250名の受け入れ増を達成している。支援ニーズの増加ということと地域実情と共に、それに対して可能な限り受け入れをし、自分たちしかできない支援をするという心意気で推進した受け入れの結果である。個別対応を基本としながらも、障害特性に応じて、集団の力を使った小集団での支援を行い、個々の地域生活におけるニーズに応える努力を行っている。

地域への支援については、これまで培ってきた関係を維持し、定期的な訪問支援、支援会議の実施を継続できている。また、尾崎課長が加わったことで、これまでとは違った外部との関係性も生み出されている。事業所や関係機関との連携が進んでいる実感がある。

5. 次年度に向けて

事業実績は引き続き伸ばしていくことを目標にしながらも、支援の質を落とさないことを使命と考え、バランスを持った運営をしていきたいと考えている。実績を増やすことで、支援が拡散するという事は必ず起こってしまうからである。支援の質を優先には考えていきたいため、現場の状況を見ながら冷静に判断をしていき、理想を追求していく。

地域への支援については、今年度より関係機関との連携強化の兆しがあるため、それらを途絶えさせずに、更に発展させていくように運営していく。

2023（令和5）年度 多機能型事業所 ワークホーム高砂 事業報告

2024. 3. 31現在

《Ⅰ 沿革》

- 2003（平成15）年 4月 1日 知的障害者通所授産施設ワークホーム高砂 開設
- 2012（平成24）年 1月 1日 多機能型事業所（生活介護、就労継続B型）に移行
- 2020（令和 2）年10月19日 納豆工房なっとこちゃん（従たる事業所）開設
- 2021（令和 3）年12月31日 納豆工房なっとこちゃん（従たる事業所）廃止
- 2022（令和 4）年 1月 1日 生活介護事業所 納豆工房なっとこちゃん 開設
- 2022（令和 4）年10月 1日 就労継続支援B型事業所 納豆工房なっとこちゃん 開設

《Ⅱ 利用者状況》

1 定員と契約者数 （単位：人）

事業種別	定員	契約者数
生活介護事業	12	9
就労継続B型事業	28	24
合計	40	33

2 市町別契約者数 （単位：人）

市町名	生活介護事業	就労継続B型事業	計
高砂市	2	14	16
加古川市	3	3	6
播磨町	0	3	3
小野市	1	0	1
姫路市	3	4	7
合計	9	24	33

3 利用者年齢構成

（1）生活介護事業 （単位：人）

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	合計
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	60～		
男性	0	1	2	0	1	1	0	1	1	1	8	
女性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計	0	2	2	0	1	1	0	1	1	1	9	

	男性	女性
最少年齢	22歳11か月	20歳0か月
最高年齢	60歳0か月	20歳0か月
平均年齢	41歳4か月	20歳0か月
男女平均年齢	38歳9か月	

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男性	1	2	1	5	4	3	2	1	0	19	
女性	1	0	0	1	0	2	1	0	0	5	
合計	2	2	1	6	4	5	3	1	0	24	

	男性	女性
最少年齢	19歳8か月	19歳7か月
最高年齢	50歳2か月	48歳3か月
平均年齢	35歳1か月	35歳8か月
男女平均年齢	34歳2か月	

4 利用者月別実人員・延べ人数

(1) 生活介護事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	11	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	116
延人員	205	197	205	195	172	193	206	182	171	154	176	169	2,225

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	24	24	25	25	25	24	24	25	24	24	24	24	292
延人員	487	556	531	486	479	492	495	496	494	487	481	483	5,967

5 入退所・変更契約の状況(年間)

(1) 生活介護事業・・・サービス変更・入所(新規含む) 0名

サービス変更・退所 2名

※「納豆工房なっところちゃん」へ移動した利用者 1名 B型へ移動した利用者 1名

(2) 就労継続B型事業・・・サービス変更・入所(新規含む) 4名

サービス変更・退所 2名

6 障害支援区分

(1) 生活介護事業

(単位:人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	0	0	1	1	2
加古川市	0	0	3	0	3
播磨町	0	0	0	0	0
姫路市	0	0	1	2	3
小野市	0	0	1	0	1
合計	0	0	6	3	9

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	7	0	1	4	1	1	0	14
加古川市	0	0	1	0	1	1	0	3
播磨町	0	0	1	1	1	0	0	3
姫路市	2	0	0	2	0	0	0	4
小野市	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	9	0	3	7	3	2	0	24

7 知的障害の程度(「障害者(療育)手帳」の判定による)

(単位:人)

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男性	11	14	3	0	28
女性	1	3	1	0	5
計	12	17	4	0	33
比率	36%	51%	13%	0%	100%

8 自閉症または自閉的傾向を有する者(入所時の諸書類を基に集計)

区分	男性	女性	計
人員	12人/28人	2人/5人	14人/33人
比率	42.9%	40%	42.4%

9 その他の障害、てんかん

(単位:人)

区分		男性	女性	小計	合計
身体	肢体不自由	0	0	0	1
	難聴	1(1種2級)		1	
精神科薬	てんかん	4	0	4	4
延べ人数		5	0	5	4

10 利用者の通所方法

(単位:人)

	徒歩	自転車	バス	JR	山陽電車	付き添い通所	送迎サービス
男性	7	6	0	0	1	3	11
女性	1	1	0	0	2	0	1
計	8	7	0	0	3	3	12

《Ⅲ 生活支援》

1 一日のスケジュール（日課の基本）

時間	内容
8:50	来所、朝の会
9:00	作業開始
(10:00)	送迎者作業開始
10:40	午前休息
10:50	作業再開
11:30	昼休憩（前半グループ 昼食、歯磨き等）
12:30	前半グループ 作業開始 昼休憩（後半グループ 昼食、歯磨き等）
13:30	後半グループ 作業開始
15:00	午後休息（夏季はスポーツドリンク） 送迎者作業終了
15:15	作業再開
16:50	作業終了、終わりの会
17:00	帰宅

2 昼休憩等の過ごし方

日課の中心が「作業」であることから、休憩は「多目的室（食堂兼休憩室）」など各自の好みの場所で過ごすことを基本とした。また、体重増加や生活習慣病が気になる利用者等については、事業所周辺を散歩するなどの対応を行った。自閉症の方については、落ち着ける環境を整える必要性から、周囲から刺激を軽減する対策（休憩場所、時間帯をずらす）を行なった。

利用者さんの興味があること（PCによるYouTube鑑賞など）を個別に提供した。

3 新型コロナ対策等

新型コロナウイルス感染対策として、休憩時間を2回に分け密集を避けることや、常時窓を開けての換気、空気清浄機やオゾン発生機の設置を昨年に引き続き行った。5月に5類感染症となったことを受け、食堂のパーテーションについては撤去を行なった。

7月末から8月初旬にかけクラスターが発生したこともあり、県から抗原検査キットの提供を受け2月末まで毎週金曜と月曜日に抗原検査を実施し、県への結果報告をおこない感染防止に努めた。

4 水分補給について

夏場の熱中症対策期間（5月～10月）として、定期的な水分補給を実施すると共に、年間通しての「麦茶」提供に加えて毎日500mlのスポーツ飲料を全利用者と同職員に提供した。また、利用者の水分摂取量を把握しやすくするため、500mlのウォーターボトルを全ての利用者に提供した。

5 作業以外の活動（季節行事・保護者会共催行事など）

4月から完全週5日稼働を本格的に導入したことにより、土曜日を通所日と位置付けて保護者会共催行事や季節行事を行ない余暇活動の拡充をした。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止を余儀なくされていた対面行事についても少しずつ再開していった。

（1）料理クラブ

新型コロナウイルスの影響で中止し、その後再開の見込なし

（2）余暇活動など

週5日稼働の完全移行で土曜日を通所日と位置付け、季節行事などを開催。

（3）一泊旅行

新型コロナウイルスの影響で中止していたが、日帰り旅行として再開。

（4）のじぎくスポーツ大会

利用者1人が1500m走に出場し、金メダルを獲得。

（5）ばんたん親善運動会

4年ぶりの開催となったばんたん親善運動会に利用者5名が参加。

（6）ばんたんゆうあい文化祭

作品展が実施、ワークホーム高砂からは、新型コロナウイルス感染拡大防止に使っていたパーティーションを再利用し、スタンドグラスを利用者全員で作成し出品した。また、グループに分かれて全員会場を訪れ作品展の鑑賞を行なった。

（7）田植え・稲刈り体験事業

前橋農園さんの協力のもと、地域休耕田を活用した農業事業を行なった。保護者会と共催し6月には田植え、10月には稲刈り・バーベキューを実施。

（8）クリスマス会

12月23日、ユーアイ帆っとセンターにて4年ぶりの開催となるクリスマス会を保護者会と共催で開催。

（9）1年を振り返る会

3月23日、ユーアイ帆っとセンターにて1年を振り返る会を開催。今年度は1年を振り返る映像の他、初めての試みとして実践報告の発表を実施。

（8）実施した主な行事

- 4月・・・季節行事（ユニナビサッカー教室参加・天川東公園でのリレー大会）
- 5月・・・保護者会総会と職員顔合わせ会
- 6月・・・田植え体験（保護者会共催）
- 7月・・・季節行事（スタンドグラス作り）
- 9月・・・日帰り旅行（奈良）
- 10月・・・稲刈り体験・BBQ（保護者会共催）
- 12月・・・クリスマス会（保護者会共催）
- 1月・・・季節行事（初詣）
- 3月・・・1年を振り返る会（保護者会共催）

1 ワークホーム高砂の利用者支援と作業支援の基本

- (1) 利用者支援の基本は、働くことを基本にして社会性・協調性（仲間意識）を育み、仕事に自信と責任が持てるような支援を行った。また、個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに添った関わりを大切にした。
- (2) 「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者と連携しながら取り組んだ。グループホームの利用者や一人での通院が困難な利用者については、通院付き添いや投薬、血圧・体重などの管理を行うとともに、保護者や本人の要望を受け歯科受診などの付き添いも積極的に行った。
- (3) 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・施設長（サービス管理責任者）・担当支援員が同席して年2回実施した。
- (4) 本人や保護者の希望を踏まえて就労を目標に掲げた取り組みを行うとともに、働くことを生活の柱に据えた充実した暮らしづくりの応援を積極的に行った。
- (5) 作業支援の基本は、就労継続B型事業所だけでなく生活介護事業所においても、「働く中でたくましく」「働く仲間を大切にする」を目標に、「大人としての働き方」を追求し、「就労移行支援事業所」や「A型事業所」「一般就労」へのステップアップを目指した。
- (6) 自立通勤が困難な利用者については、送迎サービスを実施し、加古川方面、姫路方面まで送迎を行なった。

2 作業内容

(1) クリーニング作業

ゴトウ・アズ・プランニングと協力してクリーニング作業を実施

(2) その他作業

- ①ウエスの販売 ②楠公園清掃作業

3 クリーニング作業の主な取り組み経過

- (1) 設立当初から「シーツ班」「たたみ班」「仕分け班」「タオル班」の4つに班分けを行い、利用者支援を実施してきたが、平成29年度からは、作業班にこだわらない横断的な作業方法を取り入れ、利用者が様々な作業に挑戦できるような環境を整えるなど丁寧な支援に努めてきた。その結果、利用者のできる作業が増え、作業効率も大幅に向上した。
- (2) 2020年度は、新型コロナ対策として「仕分け班」を完全に撤廃し、利用者、職員の分散が無くなり、効率的な作業環境を整えた。10月には「納豆工房なっところちゃん」がオープンし、作業人員が大幅に減ったが、作業班にこだわらない横断的な作業方法が身についていたことから大きな混乱もなく作業を行うことができた。
- (3) 2021年度においても利用者の作業リーダー制、休憩の交代制について継続して取り組み、利用者の自主性を伸ばすことができた。また、2020年度から試行していた「洗濯後の仕分け作業」を継続して行い、利用者の作業を衛生区域のみで行うことができた。
- (5) 2021年1月1日からは納豆工房なっところちゃんが生活介護事業所として独立したため、7名の利用者が納豆工房へ異動した。

(6) 2022年度は「納豆工房なつとこちゃん」が10月に就労継続B型事業所を立ち上げたことから、当事業所から4名の利用者が異動した。

運営面では、週5日稼働の試行により効率的な運営が可能となり、日々の作業に携わる職員や利用者数が集中化し作業効率が上がるとともに、支援の幅を広げることが可能となった。そのため、作業場のレイアウトを大きく変更し、利用者の個別対応を積極的に取り入れた。また、協力企業が中心となりシーツロールのオーバーホールを行い作業の効率化を図った。

(7) 2023年度は、仕上げ場の週5日制を完全導入し、作業量の持直しを行ない利用者減に対する1日当たりの作業負担の軽減を図りつつ、土曜日に作業を行なわない通所日を設定することで余暇活動、行事などの充実を図った。

4 クリーニング作業における協力企業との関係

(1) クリーニング事業の協力企業・・・株式会社ゴトウ・アズ・プランニング

設立時は、株式会社MAO（オノエクリーニング51%、ゴトウ・アズ・プランニング49%出資の合弁会社）が協力企業であったが、2010（平成22）年にゴトウ・アズ・プランニングがオノエクリーニングの出資分を買い取り、協力会社はMAOからゴトウ・アズ・プランニングに変更となった。

(2) ゴトウ・アズ・プランニングとの話し合いについて

2023年度は安杖社長（ゴトウ・アズ・プランニング）、岡本執行取締役役員、齋藤施設長、長谷川施設長、亀山副施設長、楠課長補佐で経営会議を実施していたが、9月開催より三原理事長も参加し会議を行なった。作業量の増大、県環境部による指摘事項等の課題が表出するなか役割等を明確化する契約書作成に向けた課題整理を行なった。また毎週金曜日16:00から定例で行運営会議に10月よりゴトウ・アズ・プランニング安杖社長にも参加して頂き、課題改善に努めた。

使用水量は、瀬戸内条例に基づき、85t/日以内の水量を上限とし洗濯等を行なうことについて双方で確認している。また、瀬戸内条例における特定施設の設置・変更申請については、兵庫県環境部水大気課の指導を受け、ゴトウ・アズ・プランニングと協力して申請を行なった。（現在進行中）

《経営会議開催日》

第1回	2023年	4月	21日
第2回	2023年	6月	16日
第3回	2023年	8月	17日
第4回	2023年	10月	5日
第5回	2023年	10月	31日
第6回	2023年	11月	22日
第7回	2023年	12月	27日
第8回	2024年	2月	2日
第9回	2024年	3月	8日

《運営会議》

年度通算28回開催

5 クリーニング作業環境の改善（継続的取り組み）

- (1) 2013（平成25）年度から暑さ対策としての作業環境改善に取り組み、ルーファンの設置（2カ所）、排煙窓の新設工事（東西北面）を実施した。
- (2) 2014（平成26）年度は、シーツロール機の北側面に窓を新設し空気の入れ換えができる環境整備を実施した。
- (3) 2015（平成27）年度は、工場周辺のセメント舗装を実施し清掃がしやすい環境を整えたほか、工場内の安全通路の確保や立ち入り禁止区域の設定等、安全確保に重点を置いた環境整備を行った。
- (4) 2016（平成28）年度は、9月に駐車場を新たに新設し、仕分け班専用の更衣室を設置、施設内の電灯のLED化を完了、シーツ班投入機北側上部の窓を新たに増設、西側窓に遮光フィルムを貼る工事を行った。また、北側「松本商会」との賃借契約を3月末で解消した。
- (5) 2017（平成29）年度は、工場清掃の効率化を目的に1階南側に引き戸の大型出入口を設けたほか、採光と風通しを目的に工場内汚染区域に大型サッシ2基を設置した。また、医療関連サービスマーク認定に備えて洗濯場と仕上げ場の境界にビニールカーテンを設けるとともに、大型洗濯機の横と準汚染区域内消毒保管庫の横に手洗い場を設置するなど衛生環境の整備を実施した。
- (6) 2018（平成30）年度は、仕分け班の作業服をつなぎ服に変更するなど感染症対策を積極的に行った。また、仕分け班作業場に固定式の扇風機を設置し、作業環境の改善を図った。
- (7) 2019（令和1）年度は、5S活動の一環として作業後の作業場清掃を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策の一環として仕分け作業を廃止する方向でGOTOと協議し、3月に試行し次年度からの本格実施に備えた。このことはワークホムの歴史にとっては画期的なことであり、利用者全員が衛生区域で作業することになるとともに、仕分け作業の重労働からも解放されることとなった。
- (8) 2020（令和2）年度は、コロナ対策を徹底し、汚染区域、準汚染区域、清潔区域を分け玄関を変更した。その際、防寒対策のためアコーディオンカーテンを設置し、冬場の作業場温度を確保した。また、駐車場の安全対策の一環として、フェンス沿いに人工芝を設置した。
- (9) 2021（令和3年）度はこれまで週6日稼働している工場運営を週5日稼働に変更することにより、1日当たりの利用者数と職員数を確保し支援環境の改善を図るための準備を進め、令和4年度から試行導入をすることを決めた。
- (10) 2022（令和4）年度は、週5日稼働の試行を実施し、利用者全員が公休日となる土曜に職員が工場の清掃や機械メンテナンスを行う日を設定した。

経年劣化が進んでいた工場のクーラーについては、ガスヒーポン方式から電気方式に更新するとともに、吹き出し口（ダクト）の増設も行い利用者一人一人にスポットクーラーの風が当たるよう改善を行った。

女性利用者の排泄支援を効率化するため、1階女子トイレ内を改修整備して汚物処理槽を設置した。
- (11) 2023（令和5）年度は、大型工事の実施は無かったが、週5日稼働の完全移行で利用者全員が公休の土曜日に職員が機械メンテナンス、工場レイアウトの見直しを行なった。

6 医療関連サービスマーク認定更新について

病院寝具を専門に洗濯するために必要な「医療関連サービスマーク」については、ワークホーム高砂開設時の平成15年度に初めて認定を受け、以降3年に一度の頻度で更新している。2023年度は更新年にあたり、9月に書類審査、11月に現地実地調査を受け、2月に認定工場として認定更新された。

7 その他作業（「ウエス販売」「楠公園の清掃受託」）について

○クリーニングの廃棄タオルをウエスとして定期的に販売した。

○高砂市からの委託により希望山荘東側の「楠公園」の草刈り等の清掃を実施した。

8 作業収入と工賃支給

(単位:円)

	事 項	令和5年度	備 考
収入	洗濯事業収入	19,474,449	ゴトウ・アズ・プランニング委託料
	公園清掃収入	62,500	高砂市からの委託料（楠公園清掃）
	ウエス売却収入	26,598	
	計	19,563,547	
支出	工賃支給額	15,864,710	
	作業員賃金	2,514,451	
	消費税	1,184,384	
	計	19,563,545	
	収支差額	0	

9 利用者工賃の考え方と「業績賞与」について

(1) 工賃については、「ワークホーム高砂工賃支給要領」に基づき支給した。基本的な考え方としては、事業にともなう純利益を工賃財源とし、年2回（4月、10月）の工賃見直し評価を行い、各自の作業能力を評価したうえで時間給に換算し、働いた時間数を掛け合わせて工賃を決める方法を採用した。

(2) 2016（平成28）年度後期から始まった「業績賞与」については、2022年度においてもゴトウ・アズ・プランニング社から904,045円の支給が別途あった。しかし7月に県環境部の指摘を受けたことで使用水量について明確な制限が設けられたことから、今後は売り上げの大幅な増収は見込めないことから、業績賞与については無くなる見込み。

(3) 工賃については、毎月第2水曜日に支給し、一時金については、8月、12月、4月に支給した。

(4) 工賃支払い実績

(単位:円)

	4月	5月	6月	7月	夏季一時	8月	9月
生活介護	198,090	195,320	209,680	179,830	95,000	180,770	195,510
就労B	885,190	1,010,050	945,290	878,960	710,000	863,430	877,140
計	1,083,280	1,205,370	1,154,970	1,058,790	805,000	1,044,200	1,072,650

10月	11月	12月	冬季一時	1月	2月	3月	春季一時
200,890	166,690	148,730	170,000	134,890	154,440	144,820	99,000
887,270	910,110	897,230	930,000	878,180	872,350	885,850	960,000
1,088,160	1,076,800	1,045,960	1,100,000	1,013,070	1,026,790	1,030,670	1,059,000

	年間工賃 計	平均工賃月額
生活介護	2,473,660	21,510
就労B	13,391,050	48,063
計	15,864,710	

《Ⅳ 健康管理・栄養管理などの支援》

1 健康管理及び保健衛生等

(1) 保健衛生会議の開催

「保健衛生会議」を月1回開催し、囑託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理、感染症予防、作業環境管理・改善に努めた。

(2) 定期的な健康診断と体重測定

定期健康診断については、7月（利用者と職員に空腹時検査の協力をお願いした）と1月（職員のみ）に実施し、結果については、井野囑託医師に報告し指導を受けた。また、医師の意見も添えて、その結果を各家庭に配布し、本人と保護者に説明するように努めた。

「体重測定」については、偶数月に実施しBMI値の算出を行い、肥満の予防に努めた。

(3) 作業環境の把握

作業場に温度湿度計を設置し作業環境の把握に努めた。特に夏場は、休憩（30分に1回）や水分補給を頻繁に行うなど、熱中症対策を重点的に行った。水分補給については、各利用者に水筒（平成28年度から導入し、当初は保護者会から支給、前年度からは事業所にて配布）1本を配布し、各自の一日の水分量を職員が把握・管理した。また、作業場の気温が30℃を超える5月～10月にかけてスポーツ飲料（ペットボトル1本500ml）を配付し熱中症対策を行った。

(4) 感染症対策

○ 新型コロナウイルスなどの感染症対策全般については、月に一度の「感染症基本研修」を看護師を講師として実施し職員の知識と技術を高めるように努めた。また、①検温の実施 ②アルコールによる手指消毒の徹底 ③マスクの正しい装着支援 ④次亜塩素酸ナトリウムによるドアノブ等の拭き取り ⑤多目的室機のパーテーションの導入(6月廃止) ⑥食事場面での非対面方式の導入 ⑦毎日の十分な換気⑧「3密（密閉、密集、密接）」の回避などの対策を積極的に行っ

た。

- 5 類移行後も作業終了時や食事前、トイレ使用後などについては、手洗いの励行とアルコールによる手指消毒を徹底するよう呼びかけるなど、利用者と職員の感染症予防に対する意識向上に努めた。
- 洗濯作業においては、汚染物も取り扱うためゴトウ・アズ・プランニングの職員を含めた全職員を対象に、感染症の基礎と疥癬、MRSA、ノロウイルスの勉強会を行い、感染症に対する知識を深めるとともに感染症予防への意識を高めた。

(5) 加古川歯科保健センターとの連携

加古川歯科保健センターから派遣される歯科衛生士による歯磨き指導を利用者全員が受け、その結果を家庭に知らせ、必要な人については歯科治療をお願いした。また歯科衛生士による歯磨き指導を契機として、昼食後の歯磨きへの関心を高めることに努めた。本年度についても特に口腔内の汚れが多かった利用者については、職員が付き添い歯磨き支援を徹底的に行った。

(6) 生活習慣病の予防

健康の維持管理については、利用者の年齢が高くなるに連れ「生活習慣病」の予防対策が重要になりつつあり、定期健康診断の結果を踏まえて積極的に受診を促した。また、受診に関して保護者の協力が得られにくい利用者については、職員が通院の支援を行った。

グループホーム利用者を中心に生活習慣病罹患利用者は月1回の井野病院、歯科への定期通院の支援を行った。また風邪症候群や皮膚疾患などに対しても病院受診の検討を行い、必要に応じて定期外受診の支援を迅速に行った。検査結果や内服薬などに関しては医師からの情報を正しく看護師から支援員に伝達するよう努めた。

(7) グループホーム利用者への支援

グループホーム所属の看護師が、可能な限り朝と夕にホーム内にて利用者の健康観察（入浴時は全身観察）を行い異常の早期発見に努めた。

2 栄養・給食について

(1) 給食委員会の開催

利用者の昼食の充実と安心・安全な食事提供を目的として、業者（有限会社ひでかつ給食）と連携して給食提供を行った。また、給食委員会を3回開催するとともに、現場見学を行うなど、より良い給食の提供に努めた。

(2) 新型コロナ感染症対策

本年度についても新型コロナウイルスの感染対策を図る観点から、施設での盛り付けが必要な「お楽しみメニュー」を中止し、お弁当の形でのお楽しみメニューを提供した。また、昨年度に引き続き、納豆工房が製造する納豆「なっとこちゃん」を提供した。

《V 人権擁護、虐待防止の取り組み》

1 虐待防止の取り組み

虐待防止については、2021年8月に「法人虐待防止委員会」が設置され、2022年6月からは「虐待防止マネジャー連絡会」が設置された。当事業所は、昨年度までの「虐待防止・人権擁護委員会」に代わり「虐待防止対策委員会」を法人統一の委員会として設置し、研修会やチェックリストを定期的に行うなど、利用者の人権擁護と現場における虐待防止に努めた。

また、12月に外部講師を招き、法人全体での虐待防止研修会を実施した。

2 本年度の研修内容

「障害者虐待防止法」を学ぶとともに、職員間で互いの支援方法などについて意見が出しあえる環境や客観的に自分を見つめ直し支援を振り返ることが虐待の未然防止には必要であることから、行政が推進するチェックリストによるセルフチェックを行い日頃の利用者や職員との関わりを振り返り、虐待防止についての意識を再確認した。

《VI 防災への対応》

- 1 危険物管理 地下タンク及び地下埋設配管について毎週点検し、記録に残した。(消防署の指導にもとづき毎月曜日点検実施)
- 2 防火管理 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。
- 3 車両管理 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。
- 4 セキュリティー 防犯カメラを4箇所設置していたが、更に4か所追加し計8台でセキュリティーシステムを稼働させ建物内の防犯に努めた。
- 5 防災訓練 1月避難訓練、通報訓練を実施 3月避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施。

《VII 職員研修（施設外研修）・会議等（主なもの）》

月	研修名	場所	参加者
7月	全国知的障害者関係施設長等会議	東京	1名
7月	全日本自閉症支援者協会総会	東京	1名
7月	てんかん基礎講座	オンライン	1名
7月	新任職員研修会	神戸	1名
8月	訪問型職場適応援助者養成研修	神戸	1名
8月	強度行動障害のある人の地域での暮らしを考える	高槻	2名
8月	権利擁護委員会 研修会	神戸	2名
8月	防災研修会	高砂	1名

9月	全国社会就労センター総合研究大会	大分	2名
9月	近畿地区 生産活動・就労支援部会研修会	奈良	2名
10月	近畿地区知的障害者関係施設職員研修会	京都	1名
10月	農福連携および生産活動・就労支援先進事業等訪問事業	奈良	2名
11月	播淡地区職員研修会	姫路	1名
12月	意思決定研修会	神戸	1名
12月	福祉サービスに関する苦情解決セミナー	姫路	1名
12月	障害者虐待対応力向上研修	オンライン	1名
12月	日中活動支援部全国大会近畿地区大阪大会	大阪	2名
1月	強度行動障害支援者養成研修	オンライン	2名
1月	事業計画策定研修	オンライン	1名
1月	虐待防止研修	高砂	1名
2月	障害者就労支援研修会	加古川	1名
2月	全国社会就労センター長研修会	東京	2名
3月	播淡地区施設長研修会	姫路	2名
3月	兵庫県工賃向上研修	姫路	1名
3月	姫路市行動障害支援センター のぞみ研修会	姫路	8名

《Ⅷ 資格取得（新規） 》

資格名称	取得者氏名
クリーニング師	2名

《Ⅸ 施設サービス評価、苦情解決 》

1 施設サービス評価

本年度は受診せず

2 サービス苦情解決

保護者懇談会において、利用者や保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、毎月の保護者会役員会や保護者会行事に施設長が参加し、保護者の要望等を積極的に聞くように努めた。

食堂に「意見箱」を設置し、利用者からの意見を聞くと共に年2回アンケートを実施し利用者からの要望等を聞くように努めた。

苦情受付担当者： 楠 英充

苦情解決責任者： 齋藤 克己（理事・施設長）

第三者委員： 川本知代子氏（あかりの家 評議員 元高砂市職員）

高尾 剛一（あかりの家 元監事）

《Ⅹ 地域支援、地域啓発活動など 》

1 見学・実習の受け入れ等

事項	内容
特別支援学校保護者等 説明会	2月23日 3月5日 特別支援学校の保護者や事業所職員を対象とした利用者獲得のための説明会 (延べ37名)
施設見学	10月 6日 いなみの特別支援学校（生徒25名 教師10名） 11月 9日 東はりま特別支援学校（生徒32名 教師14名）
特別支援学校実習	11月 6日～11月10日 東はりま特別支援学校（2名） 11月20日～11月24日 東はりま特別支援学校（1名） 12月 4日～12月 8日 東はりま特別支援学校（2名）
学生社会福祉実習	新型コロナウイルス感染症感染拡大のため実施なし
社会福祉士実習	12月18日～12月22日 1名受け入れ

2 講師派遣

① 10月 NPO法人パレットが主催する「行動援護従事者講習会」の講師として施設長と副施設長が講義した。

② その他、予定されていた研修会は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

3 機関紙の発行

「月刊ワークホームだより」を毎月発行し、保護者に配布するとともにホームページで公表した。

4 ホームページの更新

ワークホーム高砂のホームページは、平成27年度に県立総合リハセンター内の重度障害者在宅就労者の会e-workに作成を依頼し、「月刊ワークホームだより」の発刊の都度、掲載更新した。メンテナンスについても再契約している。2024年度ホームページリニューアルに向けて原案を作成中。

《XI 保護者会活動》

	日 程	会議・行事等	内 容	参加数
4月	4月 9日(日)	本部・企画委員会	総会準備	10名
5月	5月13日(土)	保護者会総会 職員紹介	保護者会総会 ユーアイ帆っとセンター	44名
		第1回役員会	田植え体験事業・環境整備打合せ	10名
6月	6月18日(日)	田植え体験事業	前橋農園さんの協力でワークホーム高砂と共催	74名
		第2回役員会	環境整備・保護者研修会打合せ	8名
7月	7月 29日(日)	環境整備 保護者交流会	第2作業所清掃 保護者交流会・給食試食会	53名
		第3回役員会	研修会について	9名
8月	8月 27日(日)	第4回役員会	研修会・父親の会検討	9名
9月	9月 30日(日)	保護者研修会	愛心園訪問	44名
		第5回役員会	父親の会・稲刈り体験打合せ	7名
10月	10月29日(日)	稲刈り体験事業 屋外事業	前橋農園さん協力でワークホーム高砂と共催	73名
		第6回役員会	クリスマス会打合せ	9名
11月	11月26日(日)	第7回役員会	クリスマス会・1年を振り返る会打合せ	7名
12月	12月23日(土)	クリスマス会	ユーアイ帆っとセンターでワークホーム高砂と共催	78名
1月	1月 28日(日)	・第8回役員会	・1年を振り返る会について	8名
2月	2月 25日(日)	第9回役員会	総会準備・次年度役員について	8名
3月	3月 23日(土)	1年を振り返る会	ユーアイ帆っとセンターでワークホーム高砂と共催	78名
		第10回役員会	次年度総会準備	12名
4月	4月 14日(日)	・第11回役員会	・総会準備	12名

2023（令和5）年度 多機能型事業所 納豆工房なっところちゃん 事業報告

2024.3.31現在

I 沿革

- 2020（令和2）年10月19日 新施設供用開始（ワークホーム高砂の一部門）
 2022（令和4）年1月1日 生活介護事業所 納豆工房なっところちゃん（定員10名）開設
 2022（令和4）年10月1日 就労継続支援B型事業所 定員10名開設（多機能型事業所へ）

II 利用者状況

1 定員と契約者数

（単位：人）

事業種別	定員	契約者数
生活介護事業	10	9
就労継続B型	10	4
合計	20	13

2 市町別契約者数

（単位：人）

市町名	生活介護事業	就労継続B型	合計
高砂市	6	4	10
加古川市	1	0	1
姫路市	2	0	2
合計	9	4	13

3 利用者年齢構成

(1) 生活介護事業

（単位：人）

年齢 性別	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男性	0	0	0	0	1	1	0	4	0	6	
女性	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3	
合計	0	0	0	1	1	2	0	5	0	9	

	男性		女性	
最小年齢	38歳	10か月	33歳	8か月
最高年齢	51歳	1か月	54歳	5か月
平均年齢	47歳	6か月	43歳	8か月
男女平均年齢	46歳		2か月	

(2) 就労継続B型

（単位：人）

年齢 性別	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男性	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	
女性	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	
合計	0	0	1	0	1	1	1	0	0	4	

	男性		女性	
最小年齢	25歳	0か月	43歳	11か月
最高年齢	35歳	11か月	49歳	10か月
平均年齢	30歳	6か月	46歳	11か月
男女平均年齢	38歳		8か月	

4 利用者月別実人員・延人数

(1) 生活介護事業 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	7	8	9	9	9	10	10	10	9	9	9	9	108
延人員	137	171	186	180	194	182	197	177	168	151	147	172	2062

(2) 就労継続B型 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
延人員	71	82	78	79	82	75	81	78	78	71	67	82	924

5 入退所・変更契約の状況 (年間)

(1) 生活介護事業	入所	9名
	退所	2名
(2) 就労継続B型	入所	4名
	退所	0名

6 障害程度区分

(1) 生活介護事業 (単位：人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	0	2	1	2	5
加古川市	0	1	0	0	1
姫路市	0	0	2	0	2
合計	0	3	3	2	8

(2) 就労継続B型 (単位：人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	1	0	1	2	0	0	0	4
加古川市	0	0	0	0	0	0	0	0
姫路市	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	1	2	0	0	0	4

7 知的障害の程度 (障害者 (療育) 手帳) の判定による)

(単位：人)

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男性	6	1	1	0	8
女性	5	0	0	0	5
計	11	1	1	0	13
比率	84	8	8	0	100

8 自閉症または自閉的傾向を有する者 (入所時の諸書類を元に集計)

	男性	女性	計
人員	3人/8人	2人/5人	5人/13人
比率	37%	40%	38%

9 その他の障害、てんかん

(単位：人)

区分		男性	女性	小計	合計
身体障害	肢体不自由	0	0	0	0
	難聴	0	0	0	
精神科薬	てんかん	0	0	0	0
延べ人数		0	0	0	0

10 利用者の通所方法

(単位：人)

	徒 歩	自 転 車	バ ス	J R	山 電	付き添い通所	バイク
男 性	2	2	0	0	0	4	0
女 性	1	0	0	0	0	4	0
計	3	2	0	0	0	8	0

III 生活支援

1 1日のスケジュール（日課の基本）

午 前	9：00	来所、体調管理等
	9：30	作業開始
午 後	11：30	昼休憩（昼食・歯磨き）
	12：00	余暇活動
	12：30	作業開始
	15：00	作業終了
	16：00	清掃・帰宅

2 昼食休憩等の過ごし方

日課の中心が「作業」であることから、休憩は食堂兼休憩室などで、各自の好みの場所で自由にとっていただいた。

また利用者個々の特性に応じた余暇の過ごし方、例えば体操、読書、塗り絵などを行う等の工夫を行った。

3 新型コロナ対策等

引き続き新型コロナウイルスの感染対策として、マスクの着用や手洗いは勿論のこと、食事場面では各テーブルに一人掛けを心がける等密を避け、常時窓を開けての換気、空気清浄機や机上にパーティションを設置する等の対策を行った。

また利用者、職員ともに出勤時の体温測定を徹底することで、早期発見に努めた。

4 作業以外の活動

(1) 行 事

昨年度新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした活動を一部再開した。

①日帰り旅行（香川県）②ばんたん親善運動会③のじぎくスポーツ大会④ゆうあい文化祭

(2) 外 出

・お花見（4月1日）

・トライやるウィーク（11月7日～11日5日間2名）のプログラムとして、松陽中学生とともに姫路市立水族館に外出した。

(3) 1年を振り返る会

3月23日にゆうあい帆っとセンターにてワークホーム高砂と合同で実施。職員が制作した“1年を振り返った映像”を、利用者・保護者・職員で鑑賞（利用者さんの作業や行事の様子をスライドや動画で紹介）。また新たな取組として“ワークホーム高砂・納豆工房・GHエピソード集”（支援の中で得た経験）を作成、職員が保護者に向けて発表を行った。

(4) 実施した主な行事

5月・・・保護者会総会と職員顔合わせ会

6月・・・保護者会合同で田植え体験

9月・・・日帰りバス旅行、保護者会研修会（愛心園施設見学）

11月・・・保護者会合同で稲刈りBBQ大会

12月・・・クリスマス会（保護者会から弁当とプレゼントを提供していただく）

2,3月・・・事業所説明会（特別支援学校生と保護者向け）

IV 利用者支援、作業支援

1 納豆工房なっとこちゃんの利用者支援と作業支援の基本

以下の(1)～(5)を基本に支援を行った。

- (1) 利用者支援の基本は、働くことを基本にして社会性・協調性(仲間意識)を育み、仕事に自信と責任が持てるような支援を行うこと。また、個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに沿った関わりを大切にすること。
- (2) 「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者やグループホームと連携しながら取り組むこと。
- (3) 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・管理者又はサービス管理責任者・担当支援員が同席して年2回(6か月に一度)実施すること。
- (4) 本人や保護者の希望を踏まえて就労を目標に掲げた取り組みを行うとともに、働くことを生活の柱に据えた充実した暮らしづくりの応援を積極的に行うこと。
- (5) 作業支援の基本は、「働く中でたくましく」「働く仲間を大切に」を目標に、「大人としての働き方」を追求し、ステップアップを目指して「就労移行支援事業所」や「A型事業所」「一般就労」を目指していくこと。
- (6) 法人内の連携を図り、友愛の家の利用者のKさんを積極的に受け入れるとともに、利用者が混乱なく納豆工房なっとこちゃんで働けるよう情報の共有に努めるとともに、必要な調整を行うこと。

2 作業内容

- (1) 納豆製造作業
- (2) 販売・ショップ運営

3 主な取り組み

(1) 「納豆工房なっとこちゃん」の設置と特徴

2020年10月19日(月)、兵庫県の指定(ワークホーム高砂の従たる事業所)を受けて、高砂市曾根町に「納豆工房なっとこちゃん」を設置。希望山荘敷地内の旧納豆作業所を廃止した。事業所の機能としては、①納豆の製造を行う「作業場機能」 ②納豆の販売や周辺の福祉事業所の製品も販売する「福祉アンテナショップ機能」 ③納豆の製造や販売、製造現場の見学などをとおして障害者理解を深めていただく「啓発的機能」を主なものとして位置付けている。

納豆工房では、生産量を増やす為に大型冷蔵庫と発酵機を増設したほか、エアーシャワーや滅菌庫などの新たな設備を取り入れ衛生面なども強化した。また、福祉アンテナショップでは、他事業所の商品を取り扱うことで事業所同士の交流が持て、利用者支援の情報交換も積極的に行えるようになった。また、パート職員を増やすことで、正規職員が利用者支援を行える環境が整い、製品のチェック体制を強化し、品質の維持・向上が図られる環境が整った。

(2) 製造の取組み

- ① 新商品『サクサクなっとこちゃん』(フリーズドライ納豆)
11月 直営店で販売開始
12月 ヤマダストア一須磨店・新青山店で販売開始
- ② 新パッケージ「佐用もち大豆」(わさび)
10月 ラベルのデザインを変更

(3) 販売の取組み

① 直販店(27事業所)

自主生産する「なっとこちゃん」の販売に加え、福祉事業所等から商品を仕入れ「福祉アンテナショップ」としての機能充実を図った。

(取扱商品の提携事業所)

あかりの家、あうん、あしたばの家、いっぽいっぽ事業所、OLIVE福祉会、GreenLeaf、クリエイティブ・クルー、神戸光生園、こころね、書写ひまわりホーム、丹南精明園、たかはしサポートセンター、高砂食品、ドレミ農園、姫路こころの事業団、ビオラ、ほのか工房、パイオニア、真砂園、有機茶房ごえん、リトリートフィールド、わかばやわかば学園、納豆工房なっとこちゃん、籠谷、アルペジオカフェ、前橋農園

② 取扱店

企業・協同組合、福祉施設が運営する店舗に出荷した。

ヤマダストア株式会社全8店舗（阿弥陀、花田、北野、新青山、網干、新辻井、朝霧、須磨離宮公園前）、JA兵庫南6店舗（にじいろふぁーみん、ふぁーみん高砂、神吉、八幡、播磨、二見）、JA兵庫西旬彩蔵、元気工房さよう、ポタジェビオ、ごりんや、ごえん、リトリートフィールド、わかばや、高砂市観光交流ビューロー「結びん」（10法人21店舗）

2022年2月 ヤマダストア株式会社の神戸方面への事業拡大に伴い、朝霧・須磨離宮公園前の両店舗への配送業務は同社物流センターへの委託（センタフィー）。

※ 2022年7月からセンタフィーをヤマダストア全店に適用。

③ 通信販売

- ・ 2021年6月からStores（ストアーズ）で販売開始
- ・ 株式会社健康ライフ（通販）に出荷
- ・ 2022年12月からふるさと納税を開始

④ イベント出店等（23回）

- 4日12日～18日 山陽百貨店催事 地下1階出店
- 5月 3日 加古川おどっこ祭にて高砂市観光交流ビューローが出店
- 5月12日 兵庫セルフ+NUUMORI つながる市（神戸無印良品）出店
- 5月13日 こころねふれあいバザー出店
- 5月14日 粘覧会出店（大阪nu茶屋町4F）
- 6月11日 葵会館お客様大感謝祭出店
- 7月 5日 兵庫セルフ+NUUMORIマルシェ（兵庫県庁）出店
- 7月23日 高砂市文化会館「親子教室」ネバネバ納豆作り体験
- 9月10日 葵会館エターナルイベント出店
- 9月16日 兵庫セルフ+NUUMORIマルシェ（ひまわり公園）出店
- 10月26日 兵庫セルフ福島県産品応援キャンペーン（兵庫県庁）出店
- 10月28日 兵庫セルフ+NUUMORIマルシェ（大丸神戸店）出店
- 11月11、12日 兵庫大学「聚萌際（しゅうほうさい）」出店
- 11月19日 兵庫セルフ+NUUMORIマルシェ（播磨中央公園）出店
- 12月 3日 たかさご市社協ふれあいフェスタ2023（高砂）出店
- 12月 9日 第3回ひょうご福祉事業所フェスティバル（神戸新聞厚生事業団）
- 12月10日 高砂縁日（生石研修センター）出店
- 1月28日 兵庫セルフ+NUUMORIマルシェ（明石ピオレ）出店
- 2月23日 粘覧会出店（大阪nu茶屋町4F）
- 2月25日 東加古川軒先市場出店
- 3月 9日 兵庫セルフ+NUUMORIマルシェ（尼崎の森中央緑地）出店
- 3月17日 平福ヒノアタルマルシェ（佐用町）出店
- 3月22日 兵庫セルフ+NUUMORIマルシェ（兵庫県庁）出店

その他、神戸聖隷事業団「光マルシェ」で週1回出荷販売。ステップハウス、延命寺、わかば学園、チャレンジに週1回配達販売。真砂園保護者会、朝日の里保護者会、播磨高砂苑、つくし野、のじぎくの里に不定期に配達販売。カトリック加古川教会での月1回の販売を再開（11月～）

(4) 社会貢献

- ① こども食堂への納豆寄付（8月、12月、1月）
- ② トライやるウィーク（松陽中学2名の受け入れ 11月）

(5) 賞歴

2023年4月20日 兵庫県高砂警察署長「感謝状」授与

4 作業収入と工賃支給

(単位：円)

		令和4年度	令和5年度	備 考
収入	納豆販売収入	12,792,531	15,702,639	
支出	工賃支給額	3,264,540	4,154,780	利用者工賃
	作業員賃金	728,337	513,976	
	作業経費	8,548,021	10,161,628	大豆、マスタード、ケース、衛生用品等
	消費税	251,633	872,255	
	計	12,792,531	15,702,639	
収支差額		0	0	

5 利用者工賃の考え方と「業績賞与」について

(1) 工賃は「工賃支給要領」に基づき支給した。この要領により生産活動に伴う純利益を工賃財源としつつ、各利用者の作業能力の評価を行い、加減した時間給に働いた時間数を乗じて得た額を工賃とした。

(2) 工賃については、毎月第2水曜日に支給し、一時金は4月に支給する予定。

(3) 工賃支払い実績

(単位：円)

	4月	5月	6月	夏季一時	7月	8月	9月	10月
生活介護	126,640	157,480	166,200	90,000	142,400	170,360	160,500	166,060
就労B	107,700	120,740	117,000	200,000	103,200	118,780	112,300	114,140
計	234,340	278,220	283,200	290,000	245,600	289,140	272,800	280,200

	11月	12月	冬季一時	1月	2月	3月	春季一時	計
生活介護	155,940	146,540	276,000	128,720	128,260	145,460	72,000	2,233,160
就労B	117,740	112,600	340,000	104,740	99,340	113,340	40,000	1,921,620
計	273,680	259,140	616,000	233,460	227,600	258,800	112,000	4,154,780

	平均利用者数	年間開所日数	平均工賃月額
生活介護	7.9人	265	23,557
就労継続支援B型	3.5人	265	45,753

IV 健康管理・栄養管理などの支援

1 健康管理及び保健衛生等

(1) 保健衛生会議の開催

「保健衛生会議」を月1回開催し、嘱託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理、感染症予防、作業環境管理・改善に努めた。

(2) 定期的な健康診断と体重測定

定期健康診断については、空腹時で7月（利用者と職員でワークホーム高砂として実施）と1月（職員のみ）に実施し、結果については、井野嘱託医師に報告し指導を受けた。また、医師の意見も添えて、その結果を各家庭に配布し、懇談会等で親御さんに説明するように努めた。

「体重測定」については、偶数月に実施しBMI値の算出を行い、肥満の予防に努めた。特に気になる利用者については、体重を毎日測定し記録する中で本人の意識を高めるように支援した。

また、糖尿病の利用者へは、糖尿病食を斡旋するなどの対策をおこなった。

(3) 作業環境の把握

各利用者に水筒1本を配布し、各自の一日の水分量を職員が把握しながら体調管理を行った。

(4) 感染症対策

○ インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症対策全般については、看護師を講師とする学習会を開催し職員の知識を深めるとともに、感染症対策を実施した。具体的には、検温の実施、アルコールによる手指消毒、マスクの正しい装着支援、次亜塩素酸ナトリウムに

よるドアノブ等の拭き取りやパーテーションを利用した食事場面での非対面、十分な換気等による「3密（密閉、密集、密接）」の回避など、可能な限りの対策を実施した。

○ 作業終了時や食事前、トイレ使用後などについては、手洗いの励行とアルコールによる手指消毒が徹底されるよう積極的に声かけを行うなど、利用者及び職員の感染症予防に対する意識向上を図るよう努めた。

(5) 口腔衛生の徹底

昼食はゆっくりよく噛んで食べるよう、食後は歯磨きの声掛けを行った。特に上手に歯磨きができない或いは口腔内の汚れが目立つ利用者には、職員が付き添い歯磨きを徹底した。

(6) 生活習慣病の予防

健康の維持管理については、利用者の年齢が高くなるに連れ「生活習慣病」の予防対策が重要になりつつあり、定期健康診断の結果を踏まえて積極的に受診を促した。

グループホーム利用者を中心に生活習慣病罹患利用者は月1回の井野病院、歯科への定期通院の支援を行った。また風邪症候群や皮膚疾患などの出現に対しても病院受診の検討を行い、必要に応じて定期外受診の支援を迅速に行った。検査結果や内服薬などについては医師からの情報を正しく看護師から支援員に伝達するよう努めた。

(7) グループホーム利用者への支援

専任の看護師が、週に2回グループホーム利用者に対し入浴支援と身体観察を行い異常の早期発見に努めた。

2 栄養・給食について

(1) 業者との連携

利用者の昼食の充実と安心・安全な提供を目的として、業者（有限会社ひでかつ給食、株式会社いけのやフーズ）と連携して給食提供を行った。株式会社いけのやフーズの現場見学

(2/7) を行い意見交換するなど、より良い給食の提供に努めた。

(2) 新型コロナウイルス感染症対策

コロナ対策として、カレーなどを現地で盛り付けるお方法から弁当に切り替え、お楽しみメニューを提供した。また納豆「なっとこちゃん」を毎日提供した。

V 人権擁護、虐待防止の取り組み

1 虐待防止の取り組み

虐待防止では、担当職員が中心となって職員一人ひとりが障害者の人権について考える機会を設け、人権意識の向上をめざした。また、引継ぎ時間を活用し、虐待について施設長やサービス管理責任者が職員会議で問題提起するなど職員の意識向上に取り組んだ。

2 本年度の取り組み

職員間で互いの支援方法などについて意見が出しあえる環境や客観的に自分を見つめ直し支援をふり返ることが虐待防止につながる。定期的に職員間で話し合う場を設け自己を見つめ直す取り組みを行った。12月2日には全職員を対象とした「法人虐待防止研修会」を実施した。

VI 防災への対応

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 1 防火管理 | 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。 |
| 2 車両管理 | 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。 |
| 3 防犯設備 | 敷地内に防犯カメラを4箇所設置、建物内にセキュリティーシステムを設置。 |
| 4 防災訓練 | 10月避難訓練、通報訓練を実施 3月避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施。 |

VII 施設サービス評価、苦情解決

1 施設サービス評価

本年度は受診せず

2 サービス苦情解決

保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、保護者会役員を通じ、保護者の要望等を積極的に聞くように努めた。

食堂に「意見箱」を設置し、ご本人からの意見を聞けるようにした。

苦情受付担当者： 山口 秀人
 苦情解決責任者： 長谷川 博信（理事・施設長）
 第三者委員： 川本知代子（あかりの家評議員）、高尾 剛一（あかりの家評議員）

VII 職員研修（施設外研修）・会議費等（主なもの）

月	研修名	場所	参加者
5	法人感染症対策研修	法人内	1名
7	全自者協近畿ブロック研修会	高槻市	1名
8	播淡職員研修	姫路市	1名
	カスタマーハラスメント研修	神戸市	1名
	ジョブコーチ研修講義	神戸市	1名
9	ジョブコーチ研修実習	伊丹市	1名
	県知協人材確保セミナー	神戸市	1名
10	行動援護従事者研修	オンライン	1名
11	県知協研修	神戸市	1名
12	法人虐待防止研修会	法人内	1名
1	令和5年虐待防止研修	高砂市	1名
2	全国社会就労センター長研修会	東京	1名
	県社会福祉士虐待防止研修会	オンライン	1名
	PECS研修	オンライン	1名
	報酬改定説明会	姫路	1名
3	工賃向上研修会	オンライン	1名
	強度行動障害実践報告会	神戸	2名

IX 資格取得

名称	人数
行動援護従事者研修	1名

X 地域支援、地域啓発活動など

1 見学・実習の受け入れ等

- (1) 大学生実習 兵庫大学5名 ソーシャルワーク実習
- (2) 特別支援学校 実習生3名（東播磨1名 いなみの1名 播磨1名）
- (3) 兵庫県自閉症協会尼崎ブロック親子4組 2月3日納豆づくり体験

2 機関誌の発行

4月より毎月月刊なっところちやんだよりを発行、保護者、関係者に配布した。

3 情報の発信

(2) 広報の展開

Instagramフォロワー数 3,090件(2024年) (2023年1,573件 2022年 366件)

- 4月 Maruhariプラス 特別増刊号 に掲載
- 11月 Kiss FM神戸 の番組「シャカリキ」商品紹介
- 12月 まるはり2024 冬号に掲載
- 12月 Kiss FM神戸 「シャカリキ」で納豆工房なっところちやんの店舗紹介（ロケ番組）
- 1月 Kiss FM神戸 「シャカリキ」で商品紹介
- 2月 Kiss FM神戸 「シャカリキ」で商品紹介
- 2月 ミニパンフの更新
- 2月 まるはり2024 3・4月春号に掲載

IX 保護者会活動

ワークホーム高砂と一体的に実施した。

2023 (R5)年度 グループホーム (共同生活援助) 事業報告

1 施設の名称、定員（現員）及び所在地等

名称	定員（現員）	開設	所在地
希望山荘日笠	10人（9人）	2002年度～法人運営	高砂市曾根町1704-4
オリーブの家	7人（7人）	2015年4月	高砂市阿弥陀町魚橋375-16
友愛の家	6人（6人）	2017年4月	高砂市曾根町1704-5

2 利用者（入居者）の状況（2024. 3. 31現在）

※< 別表1 >参照

	現員	性別		年齢					障害種別 (自閉症)	手帳		支援区分						居住地 (高砂市)	主たる 日中事業 所
		男性	女性	21～ 30歳	31～ 40歳	41～ 50歳	51～ 60歳	60歳 以上		A	B1	6	5	4	3	2	1		
希望山荘日笠	9	5	4	0	2	4	2	1	3	8	1	1	2	1	4	1	0	5	納豆5. WH3
オリーブの家	7	7	0	0	1	2	4	0	5	5	2	3	1	2	1	0	0	2	WH7
友愛の家	6	6	0	1	1	2	2	0	6	6	0	3	2	1	0	0	0	3	あかり の家5
計	22	18	4	1	4	8	8	1	14	19	3	7	5	4	5	1	0	10	

利用者の平均年齢＝46.0歳（2024. 3. 31現在）
（希望山荘日笠：46歳、オリーブの家：47歳、友愛の家：43歳）

3 組織・運営体制

(1) 組織・職員配置

※< 別表2 >参照

	GH名	主たる日中事業所	体制
1	希望山荘日笠	納豆工房なつとこちゃん	専属的に早番・遅番職員が3名、看護師1名、調理・掃除等1名（パート）を軸にバックアップ施設等が補完的に勤務。 宿直はGH職員を始め、法人内事業所と学生3名が担う。
2	オリーブの家	ワークホーム高砂	専属的に早番・遅番職員が3名、看護師1名、調理・掃除等2名（パート）を軸にバックアップ施設が補完的に勤務。 宿直はGH職員、WH高砂、納豆工房なつとこちゃん等が担う。
3	友愛の家	あかりの家（生活介護）	あかりの家職員（グループホーム兼務）が、早番・遅番（そのまま宿直が主）に勤務。看護師1名。

(2) 職員育成

①内部研修

生活をTOTALに捉え、暮らしの場（グループホーム）と日中活動（主たる日中事業所）との連携の元、一体的な運営を行っている。情報共有において、希望山荘及びオリーブの家では納豆工房・ワークホーム高砂との計4事業所間でのGoogle Meetを活用、友愛の家ではあかりの家で対面にて朝の引継ぎを行い、OJTの場にもなっている。

利用者支援においては、このようにバックアップ施設（主たる日中事業所）との連携、グループホームの共通的なテーマ・運営事項等については3グループホーム会議を毎月開催。

②外部研修

研修会名	参加者	日程	場所
近畿地区知的障害者施設協会 グループホーム等職員研修会	2名	4/26	滋賀

全国グループホーム等研修会	2名	10/3、4	広島
近畿地区知的障害関係施設職員研修会	1名	10/23	京都
兵庫県社会福祉士会 障害者虐待対応力向上 A 研修	7名	12月～2024.2月	オンデマンド配信

4 運営について

テーマ： バックアップ施設の支えを軸にしつつ、3グループホーム間の横のつながりを深め、地域における豊かな暮らしを創造していく

(1) 共通テーマ

	テーマ	取り組み・対応	評価
1	3 GH 間のつながりを深め、活動の幅を広げる	<p>(1) 希望山荘・友愛の家合同ランチ会 [5/7 (日)] 目的：隣接する GH 同士の親睦を深め、災害時対応等の基盤にする。</p> <p>～ハイキングの予定が雨。納豆工房でほっともっと弁当で合同ランチ会開催。</p> <p>(2) 「コメダ珈琲のモーニングに行こう！」企画 移動支援サービスを使っているのは 3GH で 9/22 名。サービスを利用されていない方たちにも、休日の充実を図っていきたい。希望山荘の利用者を対象に実施。夏には、かき氷企画も実施。</p> <p>(3) 友愛の家 調理体制の検討 2024 年度より、世話人兼支援員補助 (パート) 配置が決定。4 月より、平日も友愛の家で調理した夕食を提供予定。</p>	<p>(1) 2GH は隣接しており、災害時の初動では連絡・協力しあえる体制を作っておく必要がある。また、活動の広がりの意味でも次年度も継続していく。</p> <p>(2) オリーブの家・希望山荘職員を月に 1 回、土日にプラス 1 名配置した。次年度は、「こんなイベントがあるから、この休日に配置してほしい」という企画を期待。</p> <p>(3) より家庭的な雰囲気近づいていく一助にしたい。法人内での有用な人材活用として捉えている。</p>
2	新型コロナウイルス感染への対応	<p>感染が流行してから約 2 年半、非感染であったが、当年度は計 5 回感染 (計 8 名の利用者)。</p> <p><参考> ワクチン接種：7/6、2024.2/29 実施。</p>	<p>初感染の希望山荘、オリーブの家では今後の基盤となる体制が出来た。</p> <p>①非感染者は抗原検査で陰性を確認後、可能な方は帰省、②夕食調理は世話人が自宅調理し、運搬する形態を導入、③対応職員を出来る限り固定化等である。</p>
3	BCP (自然災害) 作成	<p>希望山荘日笠と友愛の家は、土砂災害特別警戒区域に隣接。また、オリーブの家では、計画規模降雨 (10～200 年</p>	<p>次年度、適正な備蓄量についての再検討。避難所についても、高砂市危機管理</p>

		<p>に1回程度の割合で発生する降雨量を想定)において、1F 床上～軒下浸水(高さ 3m)の浸水が想定されている。ひとまず、BCP を完成済。</p>	<p>課とも確認しておく。 また、防災ネットたかさごをスマホ登録し、日常的に早期に情報を得る習慣を習得する必要がある。</p>
--	--	---	---

(2) 各グループホームより

①希望山荘日笠

(ア) 利用者1名 契約解除

死亡による。ワークホーム高砂、納豆工房の関係利用者にも事実を伝え、葬儀前に会場に足を運び、最期のお別れを行った。今回の学びを今後の健康管理に必ず活かしていきたい。

(イ) 65歳問題への対応

今夏、65歳を迎える利用者が1名在籍。総合支援法の介護保険優先原則に則り、介護保険と障害者総合支援法が交錯する領域であるが、心身ともに元気に過ごされてきた方であり、今回の制度移行がその低下にならぬよう努めていきたい。

②オリーブの家

(ア) 強度行動障害の利用者の安定した地域生活に向けて

オリーブの家の強みとして、職員の固定化、日中事業所との日々の情報共有、崩れた際の立て直しとして日中事業所が機能していることがあげられる。ただ、オリーブの家は住宅街に位置している為、奇声等での近隣への迷惑等、懸念材料も大きい。

今年度は、Aさんへの①精神科の主治医の病院に足を運んで家族、GHの3者で毎月情報共有、②課題となる行動がエスカレートする前に頓服服用、③日中活動を通じた状態の崩れの立て直し等の取り組みを通じた安定の維持がトピックスとしてあげられる。

(イ) 入院への対応

1名の方が異なる病院に2回入院された。期間は1週間～10日程度であったが、家族の付き添い、または病院の完全看護体制(付添いなし)により退院出来た。

一方、他の1名が入院を推奨されたが、家族の24時間付き添いという条件が確保できなかった為、オリーブの家で看護を行った。必要な治療は安静の確保と点滴治療。点滴については主治医診察日で実施、その通院日までは抗生剤の処方という形で凌ぐ形となった。今後も加齢に伴い、更に治療が必要な入院を想定している。

③友愛の家

(ア) 移動支援サービスの利用拡大

余暇時間(休日)の充実を目的に利用開始。定期的に利用している利用者1名。今後の利用に向けて準備段階の利用者が1名。定期利用中の方については10月より利用時間を3時間(これまで1時間程度)に伸ばし、昼食や買物等、本人の希望を取り入れていただきながら有意義な時間を過ごすことができている。

(イ) GHとしての活動の幅を広げる

休日(土日)については早出・遅出職員が重なる時間を有効活用し、感染症対策に留意した上で外出(ドライブや散歩)、建物内の清掃(日常手が届きづらい箇所)を積極的に実施。勤務職員がそれぞれ活動内容を考え、有意義な時間をつくることができている。

(3) その他

① 4つ目のグループホーム開設の検討

兵庫県が募集している県営住宅を活用したグループホーム運営において、高砂市内の県営住宅を見学。

5 今年度総括と次年度への課題

(1) 今年度総括

グループホーム単体では取り組める事の限りもある事を感じている。そのような中、利用者支援においては、主たる日中事業所との一体的な支援、余暇・地域交流・災害時の初期対応等においては3グループホーム間の横のつながりを活かした展開を柱にしていきたい。

(2) 次年度の課題

<短期課題> 大きくは今年度の流れを更に深めていきたい。

- | |
|------------------------------------|
| (ア) <友愛の家> (新) 調理体制を軌道に乗せる |
| (イ) BCP (自然災害) をより具体化 |
| (ウ) <希望山荘> 利用者数名で休日のグループ外出を自分たちで計画 |
| (エ) 地域連携推進会議の立ち上げ (2025年度より義務化) |

令和5年度 ひょうご発達障害者支援センター 事業報告

令和6年3月31日

I 県レベル的活動

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 市町相談支援体制の強化

市町窓口研修は、より多くの参加者が見込めるように、センター 各ブランチ担当圏域ごとに実施した。担当圏域ごとに会場を借り基本的な障害理解等は全体で統一した内容で研修を行った。

市町窓口機関に対して事例検討を中心としたコンサルテーションを実施するブランチもあった。

(2) 支援機関でのプログラム定着実施に向けた支援

クローバーペアレントトレーニングは3年間の実施定着支援の2年目を5か所で実施。また、以前に実施した機関から再度、支援の要請があり取り組んでいる事業所もあった。

ストレスマネジメント講座 4か所で2年目の講座を実施。継続実施が難しい事業所も見られたが、概ね講評であった。クローバーCRAFTプログラムは神崎郡で実施した。

(3) 市町早期支援体制の強化

依頼のあった保・幼稚園並びにこども園に対しコンサルテーションを実施した。内容は、①対象者の観察、②職員との意見交換、③職員への助言の流れで行うことが多かった。ただ、周知が不十分であること、類似した事業がいくつかあり大幅な依頼の増加にはつながらなかった。

児童発達支援事業所及び市町機関に対し行っているペアレント・トレーニングの継続実施は、全県で5か所行った。

2 事業実施状況

(1) 普及啓発・研修

①研修(実 3 回 延 7 回、延参加者数 386 人)

(参考:研修会詳細) ()内は共催機関名 【 】実施会場

日付	研修会名	内容	参加者数
6.22	クローバー ペアレント・トレーニング研修会 【神戸市教育会館 501号室】	講義①(WEB 講演) 「発達障害に関するペアレント・トレーニングの効果と課題」 鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座 教授 井上 雅彦氏 講義② 「ペアレント・トレーニングに関する理論」 ひょうご発達障害者支援センター加西ブランチ 相談支援員 川野 みか氏 令和4年度実施事業所 実践報告 NPO 法人風里 GENKI-KIDS 風音 代表 山本 千代氏 地域別意見交換会	23
9.3	2022 年度発達障害実務者養成講座(児童期) Zoom.ver. (兵庫県) 【兵庫県学校厚生会館 3F 大会議室】	【1 日目】 講義「その子らしさを生かす子育て～発達障害のある子どもの理解と支援」 iPEC(子どもとおとなの心理学的医学教育研究所) 吉田友子氏	全日程 修了者 78
11.19		講義「自閉スペクトラム症の子どもへの療育実践について」 宮城学院女子大学 教育学部教育学科 児童教育専攻 教授 白石雅一氏	1 日目 89
12.24		講義「個別支援計画とは」 西神戸高等特別支援学校 教諭 松井恵子氏	2 日目 78

		<p>【2日目】 講義「発達障害のある子どもを支える家族の支援」 立正大学 名誉教授 中田洋二郎氏 講義「発達障害のある子どもの支援と制度～小学校・中学校・高等学校～」 兵庫県教育委員会 赤井育代氏 講義「発達障害のある子どもに関わる福祉サービスと機関連携」 社会福祉法人 姫路市社会福祉事業団 相談支援事業所 ぱっそ・あ・ぱっそ 所長/相談支援専門員 濱 亜紀子氏</p> <p>【3日目】 講義「WISC-IVを中心とした子どものアセスメントと具体的支援について」 大六一志氏 講義「発達障害のある双子の子育て家庭での取り組み」 ペアレントメンター 藤田寿代氏 講義「親子で共に育ちあう 発達障害のある子どもとの暮らし」 ペアレントメンター 細見恵理氏 講義「個別支援計画 評価・助言」 西神戸高等特別支援学校 教諭 松井恵子氏</p>	3日目 81
R6.1.8 R6.2.7 R6.3.22	2022年度発達障害実務者養成講座(成人期) (兵庫県) 【兵庫県中央労働センター 小ホール、201会議室 大ホール】	<p>【1日目】 講義「発達障害と精神疾患—鑑別の困難さと対応—」 揖保川病院 副院長 中井祥博氏 講義「発達障害の心理アセスメント—心理検査を用いて—」 演習「アセスメントのためのフォーマットの練習」 ひょうご発達障害者支援センター 相談支援員 山内雅樹</p> <p>【2日目】 講義「成人期の支援と状況」 ひょうご発達障害者支援センター 和田康宏 講義「就労支援—相談、評価、ジョブマッチング、定着支援について—」 兵庫障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 山本健夫氏 講義「支援方法 ストレスマネジメント」 「支援方法 問題解決」 「支援方法 対人スキル支援」 兵庫教育大学 特別支援教育専攻・障害科学コース 教授 井澤信三氏</p> <p>【3日目】 講義「グループワークの進め方」,グループワーク「5分レポートの演習」 講義「事例検討会議の進め方」,グループワーク「事例検討会議の演習」 講評・質疑応答・意見交換 大正大学 心理社会学部 臨床心理学科 教授 近藤直司氏 講義「ストレスマネジメント講座について」 ひょうご発達障害者支援センター 山内雅樹</p>	全日程 修了者 35 1日目 41 2日目 39 3日目 35

②講師派遣(県レベル機関の研修会、就労支援に関する講師派遣など)

(延 36 件 延参加者数 913 人)

【労働】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
8.29	職場適応援助者養成研修「障害特性に応じた就業支援の方法(発達障害)」	45	和田	神戸
11.10	国及び地方公共団体向け障害者職業生活相談員資格認定講習「障害別に見た特徴と雇用上の配慮(発達障害)」	40	和田	神戸
R5.1.24	職場適応援助者養成研修「障害特性に応じた就業支援の方法(発達障害)」	25	和田	神戸

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
----	-------------	------	-----	----

6.15	発達障害者支援センター職員研修会「発達障害者支援センターにおける機 関連携」	76	和田	東播磨 (web)
6.16	発達障害者支援センター職員研修会「意見交換 ファシリテーター」※	76	和田	東播磨 (web)
7.24	国立リハビリテーションセンター神戸視力障害センター職員研修 「発達障害の概要と現状」	20	和田	神戸
8.18	兵庫県社会福祉士会 こうのとりゼミ「ひょうご発達障害者支援センターにお ける機関連携」	41	和田	東播磨 (web)
10.15	行動援護従事者養成研修「行動障害がある者の固有のコミュニケーションの 理解に関する演習」	35	和田	東播磨
10.22	行動援護従事者養成研修「障害特性の理解とアセスメントに関する演習」	35	和田	東播磨
11.20	兵庫県児童養護連絡協議会 児童養護施設職員対応力向上研修会「発達に 特性を持つ児童に関する支援」	30	西窪	神戸
R6.1.26	強度行動障害支援者養成研修 基礎研修「ファシリテーター」	60	和田	東播磨 (web)
R6.1.30	強度行動障害支援者養成研修 基礎研修「ファシリテーター」	58	和田	東播磨 (web)
R6.2.19	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)「アセスメントの方法Ⅰ、Ⅱ」※	47	和田	東播磨 (web)
R6.2.20	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)「ファシリテーター」	47	和田	東播磨 (web)
R6.2.26	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)「アセスメントの方法Ⅰ、Ⅱ」	49	和田	東播磨 (web)
R6.2.27	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)「ファシリテーター」	49	和田	東播磨 (web)
R6.1.26	「ASD 特性を背景とするひきこもり状態にある人の家族支援」 クローバーCRAFTプログラム研修(初級)	52	和田 山内	東播磨 (web)
R6.3.6	「ASD 特性を背景とするひきこもり状態にある人の家族支援」 クローバーCRAFTプログラム研修(中級)「ファシリテーター」	21	山内	神戸
R6.3.7	「ASD 特性を背景とするひきこもり状態にある人の家族支援」 クローバーCRAFTプログラム研修(中級)「ファシリテーター」	21	和田	神戸

【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
9.22	神戸市看護大学「発達障害者支援センターの取り組み」	2	和田	東播磨
10.17	高等学校における通級による指導実践研究事業に係る研究授業 「指導・助言」	44	和田	東播磨

【司法】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
12.8	兵庫県警 性犯罪捜査員研修「発達障害の理解と支援」	40	和田	阪神南

③研究発表、論文、分担執筆等

内容	担当
あかりの家 事例研究会資料	山内 杉原 西窪

④ホームページの運営、管理

内容	概要(件数、内容他)
更新回数	27 回(研修会情報等)
訪問者数	延 21,660 人(月平均延人数:約 1,800 人)
見られたページ数	延 59,745 ページ

(2) 調査・研究

・市町経由相談実施後の相談状況の検証と発達障害者支援センターの役割の検討。センター、ランチで市町経由開始後の相談傾向の分析を行った。

(3) 機関連携

①連絡協議会の実施 実施回数 (延 2 回)

協議会名	回数	日時	場所	内容	参加者数
連絡協議会	第1回	7.6	中央労働センター	1 委員紹介 2 スタッフ紹介 3 会長 副会長選任 4 ひょうご発達障害者支援センター全県における令和4年度事業報告について 5 ひょうご発達障害者支援センター、ランチにおける令和4年度事業報告について 6 討議「成人期支援においてひょうご発達障害者支援センターが取り組めること」	18 団体 34 名
	第2回	R6.3.14	中央労働センター	1 ひょうご発達障害者支援センター全県における令和6年度事業計画(案)について 2 ひょうご発達障害者支援センター、ランチにおける令和6年度事業計画(案)について 3 討議「発達障害(疑い)のある中高年の方への支援」 4 行政機関による令和6年度 事業施策(県障害福祉課、県教育委員会、兵庫労働局)	22 団体 40 名

②ネットワーク会議等への出席 実施回数 (延 22 件)

主な会議名	役割	担当
厚生労働省 発達障害の情報提供等事業に関する運営会議	委員	和田
発達障害教育情報支援センター 発達障害教育の情報提供等に係る検討会議	委員	和田
発達障害者支援センター 全国連絡協議会 役員会	副会長	和田
全日本自閉症支援者協会 理事会	理事	和田
兵庫県 発達障害者支援協議会	委員	和田
発達障害者支援協議会 生活支援部会	委員	和田
発達障害者支援協議会 医療部会	委員	和田
発達障害者支援協議会 教育部会	委員	和田
障害者雇用・就業支援ネットワーク会議	委員	和田
障害者自立支援協議会相談支援部会	委員	和田
広域特別支援教育連携協議会	委員	和田
特別支援学校就職支援推進会議	委員	和田
通級指導運営協議会	委員	和田
ひょうごユースケアネット推進会議 代表者会議	委員	和田
ひょうごユースケアネット推進会議 実務者会議	委員	杉原

③ランチ業務調整会議 (年 10 回)

センター各ランチ間の業務上の調整、意見集約、関係機関情報の集約、活動に対する意見交換等を行う。また、職員の専門性向上を目的とした事例検討会も行った。多くの職員しやすいよう、ハイブリット形式で実施した。委託元である兵庫県障害福祉課も参加し意見交換を行った。

(5) 県委託事業

事業名	内容
発達障害実務者養成講座	発達障害実務者養成講座(児童期、成人期)の実施

II ブランチ的機能(担当圏域:東播磨、淡路)

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 支援機関への支援 コンサルテーションの実施

学校、企業に対し、コンサルテーションを行うことが多かった。学校へのコンサルテーションは、相談者の所属している学校に話をし、コンサルテーションに入る形を取った例があった。一方、特別支援学校からは定期的なコンサルテーションの依頼となっている。企業からは、所属している社員への対応方法について相談があり、コンサルテーションとして入った。

コンサルテーションの内容は、①対象者の観察、②職員との意見交換、③職員への助言の流れで行うことが多かった。

具体的な対応方法について、一緒に考え提案していく形であるため、「分かりやすい」、「助言内容をすぐに取り組んでみたい」との意見が聞かれた。

(2) 市町発達障害相談窓口への研修実施

淡路地域では、市町窓口、相談事業所を分けて研修を実施した。全体には、障害の基本的理解についての動画と相談票の書き方について実際に架空事例を用いて記入をする演習を行った。市町窓口に対しては、独自の内容として、淡路地域の相談状況並びにライフステージごとの相談事例、コンサルテーションの状況の説明を行い、ひょうご発達障害者支援センターの普及に努めた。

東播磨地域では、ひょうご発達障害者支援センターについて、障害の基本理解の動画と相談票の書き方について実際に架空事例を用いて記入をする演習を行った。

2 事業実施状況

(1) 普及啓発 研修

① 研修

○実施回数(実 2 回 延 2 回 参加者数 66 人)

(参考:研修会詳細) ()内は共催機関名 【 】 実施会場

日付	研修会名	内容	参加者数
5.16	ペアレントメンター相談会		2
8.2	発達障害のある方の 相談支援にあたる支援者 研修会 in 淡路 【洲本総合庁舎 3階 会議室	挨拶 兵庫県障害福祉課長 講義「相談の流れ 医療情報 クローバーについて」 ひょうご発達障害者支援センター上郡ブランチ 山内大輔 講義「発達障害の基本的理解」 ひょうご発達障害者支援センター 加西ブランチ 川野みか 演習「相談票を用いたアセスメント・演習」 ひょうご発達障害者支援センター 杉原利恵 講義「淡路巡回相談の相談傾向、内容等、 機関コンサルテーションについて」 ひょうご発達障害者支援センター 和田康宏 講義「幼児期 学齢期 青年、成人期の相談 具体的事例より」 ひょうご発達障害者支援センター 西窪 健太 杉原 利恵 山内 雅樹	25
	発達障害のある方の 相談支援にあたる支援者 研修会 in 東播磨 【東播磨生活創造センター 「かこむ」講座研修室】	挨拶 兵庫県障害福祉課長 講義「相談の流れ 医療情報 クローバーについて」 ひょうご発達障害者支援センター上郡ブランチ 山内大輔 講義「発達障害の基本的理解」 ひょうご発達障害者支援センター 加西ブランチ 川野みか 演習「相談票を用いたアセスメント・演習」 ひょうご発達障害者支援センター 杉原利恵	10

12.1	ペアレントメンター講演会 (兵庫県自閉症協会) 【宝塚市立中央公民館 203・204 学習室】	講演 「共に悩み、共に喜ぶ子どもとのであい ～これまでの子育てを通して～」 ペアレントメンター	22
------	--	---	----

②講師派遣

○実施回数(延 8 件 延参加人数 213 人)

【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
7.21	天満南小学校職員研修「支援が必要な子どもへの関わり方」	15	西窪	東播磨

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
9.21	淡路障害者自立支援協議会はたらく部会 研修会 「発達障害のある人の就労支援」	14	和田	淡路
12.14	稲美町民生委員児童委員協議会「発達障がいとは」	20	山内	東播磨
R6.1.25	多職種協働研修「発達障害のある方への支援について」	50	山内	東播磨

【労働】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
10.25	障害者雇用促進セミナー「発達障害のある方の就労について」	35	和田	東播磨

【一般】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
9.14	ペアレントメンター養成講座	5	和田 山内 杉原 西窪	淡路
10.12	ペアレントメンター養成講座	5	和田 山内 杉原 西窪	淡路
11.28	ペアレントメンター養成講座	5	和田 山内 杉原 西窪	淡路
10.20	浜の宮中学校 PTA 人権教育研修会「発達障害のある方への基本的なかかわりについて」	45	西窪	東播磨

【家族】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
R6.2.3	キーツの会「ストレスマネジメント講座(前半)」	20	山内	東播磨
R6.3.2	キーツの会「ストレスマネジメント講座(後半)」	14	山内	東播磨

(2)コンサルテーション

①関係機関へのコンサルテーション 実施回数(実 7 か所 延 16 件)

職員の対応方法や環境整備に関する助言・指導を訪問により実施。

実施対象機関	圏域	日程	担当
東はりま特別支援学校	東播磨	10.18 11.21 R6.3.5	杉原
高砂市立曾根小学校	東播磨	12.11	西窪
播磨町立播磨南中学校	東播磨	R6.1.9 R6.2.5 R6.2.25	杉原
加古川市立平岡北小学校	東播磨	R6.1.31 R6.3.7	西窪
上月自動車	東播磨	4.7 5.8	和田
三和鉄工所	東播磨	8.18 8.28	和田
神戸製鋼	神戸	5.19 7.31 R6.2.14	和田

②クローバー ペアレント・トレーニング 実施回数(実 1 か所 延 6 件)

講座実施に当たり、児童発達支援事業所のスタッフへの技術付与を訪問により実施

実施対象機関	圏域	日程	担当
こども支援センタースマイル	東播磨	9.8 9.22 10.13 10.27 11.10 11.24	西窪

(3) 相談支援

①相談支援 (実 284 人、延 1,579 件) (昨年度:実 275 人、延 1,398 件)

前年度比で実人数は微増であるが 延件数 181 件と大幅に増加。前年比で 16 歳～18 歳の割合が増加。就学前児童ではすでに児童発達支援などの障害福祉サービスや医療機関に繋がっておられる事例が大半であった。相談の内容は主に日常生活の場面での子どもへのかかわり方や、就園・就学といった進路やそれに向けた準備についての相談があった。特に進路については保護者の中でも大まかに決まっておられる方が多く、就園・就学がスムーズに進められるようサポートブック作成の提案・作成を行うことが多かった。

小学生年代においては対人面や学習面での難しさ、トラブルにより生じた不登校状態など学校生活を主とした相談が多く見られた。相談においては本人の特徴的な点を踏まえ保護者に見立てや関わりのポイントを伝えるなどしているが、特に不登校事例では具体的な登校のステップを保護者と相談の上実践してもらった。これまで多くの支援を受けてこられた保護者の方が学校側の対応に不満を感じ対応が難しい事例があった。

中高生の相談傾向としては、不登校、それらが高じて入院や保護される事例が見られた。幼少期より保護者は子どもの発達に関して心配をされつつも診断に至らず、大きな出来事になって初めて診断へ繋がる事例が散見された。また、中高生は進路相談が多いことも変わらずだが、保護者に障害がある事例の相談が更に増え、保護者の支援者とも一緒に動くことがかなり増加した。中高生が進路を検討する際、本人の意向を中心に据えつつも、家庭のバックアップ力によって選択肢の幅が変わることも多い。支援者間の情報共有は更に重要となり連絡調整機会が増加している。

特に、義務教育ではない高校生年代では公立私立を問わず、高校生になったものの登校日数や成績が足りずに退学となり、行き先がなくなってしまい相談へ繋がる事例が増加した。本人の興味や動き、能力に応じて、別の学校への転入、福祉サービス事業の利用等を検討し、保護者がどのように本人にアプローチするのが良さそうかについても一緒に考えた。

成人期の相談として、配偶者に対しての関わり方を対面や電話での相談を受けることが増え、また、年齢層も 60 代や 70 代と高齢の方が離婚を念頭に置いた上での関り方を尋ねることがあった。高齢になるにつれて、発達障害によるものなのか認知症的な症状なのかの判別が困難であると感じるが、これまでの関わりの大変さに共感しつつ、今できることを一緒に考える時間を意識した。その他に、子どもが発達障害の傾向がある親御さんで、ご自身も生きづらさを感じて受診をした相談があった。診断を受けることで、一人で子育てを抱え込むのではなく、行政や福祉サービス等の周りを頼ることに繋げたり、そのご家庭に訪問看護等の第三者の存在が入ることで、孤立することのないように環境整備を意識した。ご本人への支援に関しては、困りごとを共有しつつ、今後の方向性を具体的に検討することをこれまで通りに意識した。その中で、支援の方向性が一辺倒になってしまわないように、多角的に考え、バリエーション豊かな提案ができるように情報収集やご本人に対するアセスメント力を高めていく必要性を感じた。

②発達支援 (実 39 人、延 118 件) (昨年度:実 46 人、延 198 件)

前年度比で延件数が減少している。

就学前～小学生の児童に対しては前年度に引き続きプリントを用いた学習を行った。就学前児童では就学後の学習に対する意欲を高めたり、家庭で学習する際のかかわり方や環境の調整を検討する場とした。小学生でも目的とするところは就学前児童と大きく変わらないが、対人場面の苦手さのある方に対しては SST を題材にしているプリントを行い、自身の関わり方を考える時間とした。また保護者に対しては、ペアレント・トレーニングの内容を個別に実施する事例があり、自身の関り方や本人を取り巻く環境について気づきを得られた。

中高生では、不登校の事例で既存の福祉サービスに繋がらない方の定期的来所が継続できる場所として利用した。非行、触法事例へのアセスメントも含めた支援や、学び方の異なる生徒への学習支援も引き続き行った。

義務教育が終了した高校生年代では公立私立を問わず、高校生になったものの登校日数や成績が足りずに退学となり、行き先がなくなってしまい相談へ繋がる事例が増加した為、高校生の保護者のグループを開催し、福祉サービス事業所への見学等を含めた内容で実施した。当事者対象としたグループも開催した。

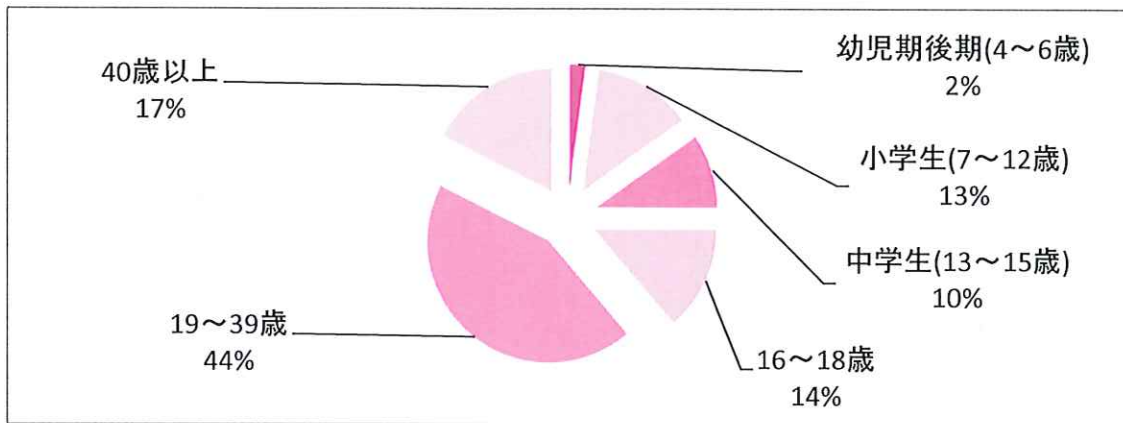
成人期では、「発達障害の特性を持つ(診断の有無問わず)既婚女性の集まり」を実施した。企画の意図としては、「色々な当事者会に参加したところ、就労の話や自分自身の話をする機会は多かったが、家事や育児について、同じような特性を持つ方と話をすることが出来る場が無かった」という話を、相談支援を行う中で聞いたため同様の悩みを抱えている方を集めて行おうと企画した。全3回の日程で、参加者は2名と少数ではあったが、ご本人の意向としても、「人数が多すぎると話す事が難しい」ということもあり、マンツーマンで話したいことを話してもらった機会にした。同じような境遇でもある方を集めたので、共感しあえることが多く、今後も継続を希望する形で終えた。また、別の集まりとして、昨年度実施した「発達障害(疑いを含む)のある方の配偶者の集まり」のフォローアップも実施し、同様に、継続しての開催を希望された。

③就労支援 (実 55 人、延 213 件) (昨年度:実 55 人、延 230 件)

前年度比で延件数が減少している。
 一般就労で働いていたが、職場内の人間関係でしんどくなり、離転職を繰り返したり、退職後、引きこもり状態を続けていた未診断の方の相談があった。相談の中で、ご自身のしんどさは発達障害に起因するのではないかと、という思いが強く、病院受診をするも診断がつかなかったこともあった。場合によっては、障害者雇用を視野に入れた上で、別の病院も受診をして、発達障害の診断を受けられた、ということもあった。診断後は、障害者雇用ではなく、ご自身の体調や生活スタイルに合う形での就労として、就労継続支援 A 型事業所の利用を始めた。ご本人の体調や思いを確認した上で、次のステップに進むものではあるが、就 A から一般就労への移行の難しさ(就労時間が長くなる、求められるものが高くなる 等)も一方で感じているので、より丁寧に支援していきたいと考えている。

(参考データ)

(a)相談支援(実人数)



(b)発達支援(実人数)

幼児期前期(0～3歳)	0
幼児期後期(4～6歳)	1
小学生(7～12歳)	19
中学生(13～15歳)	5
16～18歳	7
19～39歳	4
40歳以上	3
合計	39

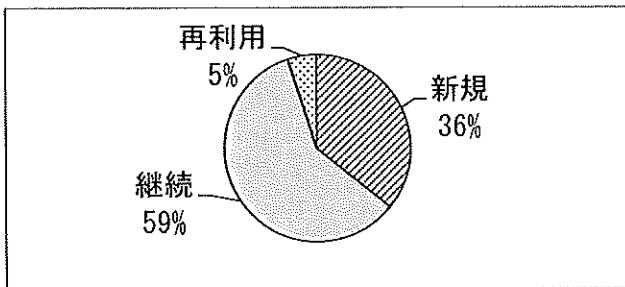
(c)就労支援(実人数)

18歳以下	1
19～39歳	34
40歳以上	20
合計	55

(d)ライフステージごとの障害種別(相談支援実人数)

障害種別	幼児期前期(0～3歳)	幼児期後期(4～6歳)	小学生(7～12歳)	中学生(13～15歳)	16～18歳	19～39歳	40歳以上	合計
自閉症(知的障害の有無不明)	0	1	2	2	1	1	1	8
自閉症(知的障害を伴う者)	0	0	2	4	6	11	2	25
自閉症(知的障害を伴わない者)	0	0	5	1	0	5	2	13
アスペルガー症候群	0	0	0	0	0	15	5	20
広汎性発達障害(知的障害の有無不明)	0	1	3	3	5	10	3	25
広汎性発達障害(知的障害を伴う者)	0	0	3	0	5	14	2	24
広汎性発達障害(知的障害を伴わない者)	0	2	6	5	2	13	5	33
AD/HD	0	0	7	4	8	14	2	35
LD	0	0	0	0	1	1	0	2
その他(発達性言語障害・協調運動性障害)	0	0	0	0	1	13	5	19
不明(未診断も含む)	0	2	9	9	10	27	23	80
合計	0	6	37	28	39	124	50	284

(e)新規・継続・再利用の内訳(相談支援 実人数)



(f)年齢ごとの相談主訴

	幼児期 (0~6歳)	小学校 (7~12歳)	中・高生 (13~18歳)	19歳以上
相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	0	0	0	9
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	8	28	41	97
利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)	1	2	3	13
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	0	2	0	12
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	3	17	21	39
進路や将来の生活に関する相談をしたい	0	1	11	25
対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)	0	2	6	20
今後の就労について相談したい	0	0	0	6
現在勤めている職場に関する相談をしたい	0	0	0	6
その他	0	2	5	22

(g)ライフステージごとの障害者手帳取得状況(相談・実人数)

手帳	幼児期前期 (0~3歳)	幼児期後期 (4~6歳)	小学生 (7~12歳)	中学生 (13~15歳)	16~18歳	19~39歳	40歳以上	合計
A	0	1	2	1	4	5	2	15
B1	0	0	2	1	0	8	1	12
B2	0	1	8	3	17	29	6	64
精神保健福祉手帳	0	0	0	0	0	11	11	22
無	0	5	24	22	17	68	29	165
合計	0	7	36	27	38	121	49	278

(4) 機関連携

①発達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席
実施回数(延 33 件)

会議名	役割	担当
加古川市 障害者雇用連絡会議 障害者自立支援協議会 子ども部会	委員	和田
	委員	杉原
高砂市 地域自立支援ネットワーク会議 教育委員会	委員	和田
	専門家チーム委員	杉原

②個別調整会議 実施回数(延 50 件)

16~18歳 小学生 19~39歳の順で多かった。主訴は「現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい」が一番多く、「対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)」が次に多かった。所属している学校や事業所と相談支援事業所で、支援方法について話しあわれていることが多かった。その中で、ひょうご発達障害者支援センターの役割として、対応方法の助言を求められることが

多かった。

③付置施設 あかりの家との連携

	内容
児童デイサービス あかりの家	・継続的な専門的療育を行うことが有用と思われる事例 (自閉症、軽度知的障害)
障害者支援施設 あかりの家 地域支援センター あいあむ	・福祉サービスの利用が必要な事例について、相談支援専門員と連携をした事例が多数 ・サービス等利用計画の作成において連携した事例

(5)調査・研究

市町経由相談実施後の相談状況の検証と発達障害者支援センターの役割の検討。センター、ランチで市町経由開始後の相談傾向の分析を行った。

Ⅲ 職員体制

1 相談時間 月～金の平日 9:00～17:00

2 担当

① 管理責任者 センター長	就労支援 担当	和田 康宏
② 相談支援員	発達支援 担当	杉原 利恵
③ 相談支援員	発達支援 担当	西窪 健太
④ 相談支援員	相談支援 担当	山内 雅樹

担当理事 坊垣 勝彦(あかりの家 施設長)

3 職員研修

研修名	日付	受講者
発達障害者支援センター全国連絡協議会 研修会	6.9～6.10	和田
あかりの家 事例研究会	6.11	和田、杉原、西窪、山内
あかりの家 虐待防止研修	12.1	和田、杉原、西窪、山内
発達障害者支援センター全国連絡協議会 近畿ブロック研修会	12.16	和田、杉原、西窪

4 職員の資格・免許取得状況(含、任用資格、受講証明)

資格・免許	人	資格・免許	人
公認心理師	3	教諭	2
臨床心理士	3	WAIS - III知能検査研修受講	1
社会福祉主事	1	K-ABC II ベーシック講習会	1

2023（令和5）年度 地域支援センター あいあむ 事業報告書

2024. 3. 31 現在

‘2023(R. 5)年度 地域支援センター あいあむ 実施事業

	事業名	事業開始年月日	
1	障害児相談支援事業	’12(H.24). 4. 1	高砂市指定
2	計画相談支援事業	’12(H.24). 4. 1	高砂市指定
3	指定一般相談支援事業所(地域移行・地域定着)	’13(H.25). 4. 1	県指定
4	障害者等相談支援コーディネート事業	’07(H.19). 10. 1	県委託事業
5	高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業	’13(H.25). 6. 1	高砂市委託事業
6	高砂市障がい者基幹相談支援センター	’19(R. 1). 4. 1	高砂市委託事業
7	稲美町障がい者基幹相談支援センター運営にか かる技術顧問契約	’22(R. 4). 4. 1	稲美町社協委託事業

地域支援センターあいあむは、入所施設で培った自閉症療育等の専門性等を“地域に返していく”という方針のもと、ご本人・ご家族が地域で安心して暮らすことが出来るように「相談支援」・「地域づくり・人材育成」の2本柱を中心に、7つの事業を展開し東播磨圏域における地域支援の拠点を目指して活動を行った。

新型コロナウイルスの感染拡大を意識した3年間の支援を経て、今年度は5類感染症へと移行した5月から徐々に本格的な活動を増やしていった1年であった。コロナ禍で定着してオンライン会議などは引き続き状況に応じて活用しながら、目の前の利用者一人ひとりにあった支援を「本人中心支援」の観点から丁寧に行っていた。

I 実施事業

- 1 障害児相談支援事業 ※終了者等も含む
06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始
計画作成者 100名 (高砂市79名 加古川市20名 播磨町1名)
- 2 計画相談支援事業 ※終了者等も含む
06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始
計画作成者 303名
(高砂市:180名 加古川市:71名 播磨町:14名 稲美町:5名 神戸市:9名 加東市:1名
姫路市:16名 小野市:1名 豊岡市:1名 名古屋市:1名 尼崎市:2名 大津市:1名 明石市:1名)
- 3 指定一般相談支援事業所 (12年4月1日より県の指定により事業開始)
 - (1) 地域移行支援 実施者 0名
 - (2) 地域定着支援 実施者 4名 (加古川市1名、高砂市3名)
- 4 障害者等相談支援コーディネート事業 (県新規事業としてH19. 10. 1あかりの家に委託)
 - (1) 市町相談支援事業への後方支援 (困難事例等への対応・助言、情報提供など)

区分	助言・指導の区分				合計	
	相談支援 体制等の構 築・運営に 必要な助 言・指導	相談支援 ケースへの 対応等に必 要な助言・ 指導	その他	左記の うち医療 的ケア児 関係		
相談 関係	①指定相談支援事業所従事者	142	188	11	18	341
	②市町職員 (障害福祉担当課に限る)	74	2	10	18	86
	③上記以外の相談支援関係者 (例: 障害者相談員、民生委員等)	152	34	16	43	202

④保健・福祉関係者（市町職員含む）	28	5	10	1	43
⑤教育関係者（市町職員含む）	20	4	18	15	42
⑥労働関係者（ハローワーク等行政関係者）	0	0	0	0	0
⑦企業等	2	0	0	0	2
⑧障害福祉サービス事業者等	102	19	77	40	198
⑨その他（協議会事務局・委員等、育成会・各団体）	173	17	48	18	238
⑩障害者本人	1	3	3	0	7
⑪障害者の家族等	5	2	1	0	8
合計	699	274	194	153	1167

（注）件数・・・助言・指導の対応回数を記載

(2) 研修会の開催

開催日時・講演会名	開催場所	内容	参加者数
令和5年 9月13日 13:30~16:00 ※企画運営	加古川総合庁舎 2階 ABC 会議室	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>進行</u> 医療的ケア児等コーディネーター連絡会 チーム支援ネット研修会 『医療的ケアのある子どもの暮らしについて』 講師 NPO 法人アンリーシュ 理事 岡田 恵美 氏 兵庫県医療的ケア児支援センター	相談支援事業者、 医ケア児等コーディネーター、行政、福祉、教育、医療
令和5年 8月 3日 13:30~16:00 ※企画運営	播磨町役場 3階 AB 会議室	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>進行</u> チーム支援ネット研修会 『対話とは何か ダイアログを学ぶ』 講師 後藤 智行 氏	相談支援専門員
令和5年 12月21日 13:30~16:00 ※企画運営	播磨町中央公民館 大ホール	・形式(講義・体験形式) ・主なテーマ・ <u>進行</u> チーム支援ネット研修会 『社会資源を学ぶ研修』 講師 明石市社会福祉協議会 山形 匡則 氏 加古川市社会福祉協議会 田上 哲也 氏 播磨町社会福祉協議会 安川 尚希 氏	相談支援専門員
令和6年 3月26日 13:30~16:30 ※企画運営	加古川総合庁舎 2F 会議室 A・B	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>進行</u> 基幹相談支援センター連絡会 『相談支援従事者初任者研修受講修了者 R5年度 トライ応援研修』 講師 主任相談支援専門員9名 3市2町基幹相談支援センター相談員2名	相談支援専門員 主任相談支援専門員 基幹職員

(3) 圏域内及び圏域間の相談支援関係機関、療育係機関の連携のための業務

- ① 県関係機関、市町、医療機関、就労機関、特別支援学校、施設、事業所などの連携
- ② 就業・生活支援センター、加古川市立就労支援センターとの連携
- ③ 現存する各種障害者児団体・ネットワーク会議(雇用・地域生活・相談事業 権利擁護)に参加
- ④ 3市2町及び圏域における地域自立支援協議会への参加(年間71回)
- ⑤ 東播磨相談事業者チーム支援ネットの運営(研修会、連絡会)
- ⑥ 東播磨圏域3市2町基幹相談支援センター連絡会開催 (3回)
- ⑦ 第2回 東播磨圏域 医療的ケア児等コーディネーター連絡会 開催(1回)他

5 高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業（高砂市新規事業として13. 6. 1あかりの家に委託）

(1) 会議活動回数

- ①運営会議2回 ②相談支援専門員による地域課題抽出の会1回 ③こども部会4回 ④事業所ワーキング4回 ⑤トライアングルプロジェクト推進ワーキング4回 ⑥くらし部会4回 ⑦お出かけマップ作成ワーキング4回 ⑧防災手帳改訂ワーキング5回 ⑨就労ワーキング11回 ⑩防災研修会1回 ⑪ユニナビサッカー教室5回 ⑫ユニナビサロン11回 ⑬ユニナビTシャツデザインコンテスト1回 計57回

※各会議における案内文の送付、議題表・名簿作成、資料作成、議事録作成、調整、会議の進行など
(全体会は除く)

(2) 高砂市福祉マップ 障がい者編 更新作業

(3) ホームページ管理・更新等

- ①ホームページチラシ作成
②ホームページ掲載 計 33件
※参考 ホームページ閲覧数 8,728件/年>
③4citiesmap 運営(2市2町協力企画)
④SNS 掲載 (Instagram、Facebook、LINE@) 各81件

6 高砂市障がい者基幹相談支援センター（高砂市新規事業として19. 4. 1あかりの家に委託）
別紙事業報告 参照

7 稲美町障がい者基幹相談支援センター運営にかかる技術顧問契約

(稲美町社協新規事業として21. 4 あかりの家に委託)

2020(R2)年7月に開設された稲美町障がい者基幹相談支援センターにおける職員への助言(SV)、相談員連絡会でのミニ研修と助言、各種研修講師等を行う。

- (1) 基幹センター職員対象 相談支援SV 12回
(2) 相談員連絡会 3回
(3) 研修会講師 1回 計16回

II 職員研修

1 職員研修内容 (基幹センター職員は別紙記載)

月	研修内容	研修地	参加者
6月 11日	相談支援をめぐる障害福祉政策の最新の動向について	西宮市	石井
8月 3日	東播磨相談支援ネットワーク研修会	播磨町	西野、梶原、春名
9月 9日・ 10日	痰吸引等研修第3号研修	加古川市	石井
9月 13日	第3回医療的コーディネーター連絡会	加古川市	松原、梶原、春名
9月 15日	令和5年度精神障害者の地域移行関連職員研修	神戸市	西野
3月 12日	令和5年度第2回精神障害者地域移行推進連絡会	加古川市	春名
2月8日 2月28日 2月29日 3月1日	令和5年度 兵庫県相談支援従事者現任研修	神戸市	西野

Ⅲ 実習受入

(1) 学生、施設職員等

新型コロナウイルスの影響のため、23年度は受け入れなし。

Ⅳ 関係団体等への役員や職員派遣等 (基幹センター職員は別紙記載)

県立東はりま特別支援学校 学校評議員会	学校評議員	13. 6～	濱口
一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク	副代表理事 事務局長	13. 11～ 17. 6～	濱口
東播磨相談事業者チーム支援ネットワーク	主宰者、構成員	08. 5～	濱口、西野、石井、松原、梶原、 春名、藤田、富木
加古川雇用(連絡)調整会	委員	07. 11～	濱口
兵庫県合理的配慮アドバイザー	委嘱	16. 5～	濱口
兵庫県医療的ケア児支援関係者連絡会議	委員	17. 9～	濱口
東播磨圏域健康福祉推進協議会 介護・福祉 部会(東播磨圏域自立支援協議会)	部会員	23. 7. 1 ～26. 6. 30	濱口
播磨町障害者計画策定委員会	委員	23. 6 ～24. 3. 31	濱口
高砂市障害福祉計画兼障害児福祉計画策定 委員会	委員	23. 8 ～24. 3. 31	濱口
加古川市 成年後見制度利用促進及び権利 擁護制度検討委員会	委員	19. 5～	濱口

Ⅴ 地域自立支援協議会への役員や職員派遣等 (基幹センター職員は別紙記載)

兵庫県	自立支援協議会	相談支援部会オブザーバー	08. 8～	濱口
東播磨圏域	自立支援協議会	委員	09. 12～	濱口
明石市	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	13. 12～	濱口
加古川市	障がい者自立支援協議会	全体会 委員	09. 12～	濱口
		くらし、子ども、しごと 相談支援ネット、差別解消	10. 5～ 18. 4～	濱口 濱口
播磨町	地域自立支援協議会	推進会議 オブザーバー	10. 6～	濱口
稲美町	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	11. 4～	濱口
		各部会 オブザーバー	11. 4～	濱口
高砂市	障がい者自立支援協議会	全体会構成員/ オブザーバー	08. 2～	濱口
		運営会議 委員	10. 6～	濱口
		くらし部会	12. 4～	濱口、石井
		ヘルパー事業所連絡会	19. 5～	濱口
		子ども部会	12. 5～	濱口、藤田
		課題抽出の会、高砂コンサルタ 本人会 高砂ユニナビ	17. 3～ 18. ～	相談員全員 随時

Ⅵ 講師、発表、寄稿等 (基幹センター職員は別紙記載)

兵庫県	兵庫県相談支援合同講義	ビデオ収録	講師	濱口
	兵庫県相談支援従事者現任研修	2日間		
	兵庫県相談支援 主任研修	1日間		
全国	厚生労働省総合福祉推進事業 都道府県職員向け研修	2日間	講師	濱口
第1回あかりの家法人事例研究会冊子『母子生活支援施設の入居の支援を通して』 ～ストレングス(強み)に着目して～		6月	寄稿	春名
【書籍】 相談支援専門員のための「サービス等利用計画&モニタリング報告書」のつくり方		7月	執筆	濱口

講師 濱口

令和5年 6月14日 16:15~18:00	ワークハウスくれよん	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講師</u> くれよん 職員研修会 「虐待防止・身体拘束適正化について」	くれよん 職員	14名
令和5年 7月5日 10:00~12:00	いきがい創造センター	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 稲美町自立支援協議会 こども部会研修会 「医療的ケアが必要な方の現状について」	こども部会員等	32名
令和5年 7月17日 13:00~17:00	兵庫県公館	・形式(講義・パネル) ・主なテーマ・ <u>パネル</u> 兵庫県医療的ケア児支援センター1周年イベント 「パネルディスカッション」での発言	一般市民 医ケア支援者他	180名
令和5年 7月20日 18:45~20:00	社会福祉法人 博由社	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講師</u> 博由社 職員研修会 「虐待防止・身体拘束適正化について」	博由社 職員	29名
令和5年 7月26日 13:30~17:00	西宮市勤労会館 大ホール	・形式(講義・パネル) ・主なテーマ・ <u>パネル進行</u> みやこ会議 兼 特別支援教育ネットワーク会議 「分野を超えた連携で実現できる そこに“居(お)ること”の意味を考える」	一般市民 医ケア支援者他	245名
令和5年 8月7日 10:00~11:30	加古川養護学校	・形式(講義・パネル) ・主なテーマ・ <u>進行とまとめ</u> 兵庫県肢体不自由教育研究協議会養護教諭部会 「医療的ケア児支援 地域・医療・福祉・学校の連携につ いて」	兵庫県肢体不自由 教育研究協議会 養護教諭部会 会員	26名
令和5年 8月25日 13:30~14:30	東はりま 特別支援学校	・形式(講義) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 東はりま特別支援学校 職員人権研修 「災害時に子供たちの命と人権をどう守るか」	東はりま特別支 援学校高等部職 員	42名
令和5年 8月25日 15:00~16:00	東はりま 特別支援学校	・形式(講義) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 東はりま特別支援学校 職員人権研修 「災害時に子供たちの命と人権をどう守るか」	東はりま特別支 援学校小・中学部 職員	41名
令和5年 8月28日 13:00~16:30	加東市発達サポート センターはびあ	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講師</u> 北播磨障がい福祉ネットワーク会議 医療的ケア児支援部会研修会 「医療的ケア児支援 教育・福祉・医療との連携の実際」	北播磨障がい福祉ネットワ ーク会議 医療的ケア児支 援部員他	28名
令和5年 9月22日 13:30~16:30	加古川市 総合福祉会館 大ホール	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 加古川市 自立支援協議会 相談支援部会 「加算について」	相談支援 専門員	18名
令和5年 9月27日 10:00~12:00	いきがい創造センター	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 稲美町自立支援協議会 基幹センター 虐待防止研修会 「私の支援であっている？」	福祉関係者	26名

令和5年 10月14日 10:00~12:00	つつじの家	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講師</u> つつじの家 職員研修会 「虐待防止・身体拘束・ハラスメントについて」	つつじの家職員	27名
令和5年 10月30日 10:00~12:00	稲美町立 総合福祉会館	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> いなみ野特別支援学校 PTA 進路講演会 「卒業後の暮らしを考える」	いなみ野特別支 援学校 PTA	89名
令和5年 11月 9日 10:00~12:00	加古川市総合福祉会 館 大ホール	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 加古川市手をつなぐ育成会研修会 「本人のいろいろな暮らし」	育成会会員	45名
令和5年 11月18日 14:00~16:30	稲美町立 加古福祉会館	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講師</u> れんげ草ママの会研修会 「進路のこと、暮らしのこと」	れんげ草ママの 会員 市民	16名
令和5年 12月23日 15:00~17:00	兵庫大学	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>司会進行</u> 適性意識障害の家族会 有志研修会 「現状を語りこれからを考える」講師 国本修慈氏	家族会有志 学生 大学教員	13名
令和6年 1月12日 10:30~12:00	野口公民館	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 野口公民館 家庭学級 「本人のいろいろな暮らし」	野口公民館家庭 学級メンバー	19名
令和6年 1月22日 10:00~12:00	ユーアイ 帆つとセンター	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>司会進行</u> 人権教育研修会 「虐待防止について」講師 森保氏	高砂市内事業所 職員 相談支援専門員	25名
令和6年 1月27日 10:00~12:00	はぐるま 福祉会	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講師</u> はぐるま福祉会 虐待防止職員研修会 「私の支援であっている？」	法人職員	13名
令和6年 2月16日 13:30~16:30	加古川市 総合福祉会館 大ホール	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 加古川市 自立支援協議会 相談支援部会 「演口式事例検討会」	相談支援 専門員	17名
令和6年 2月21日 10:00~12:00	播磨町 福祉会館	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 播磨町 基幹相談支援センター 相談支援専門員連絡会 「報酬改定について」	相談支援 専門員	9名
令和6年 3月21日 13:30~16:30	明石市立 総合福祉センター	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 明石市自立支援協議会 相談支援部会第58回 事例検討会 「楽しく学べる 演口式事例検討会」	相談支援 専門員	17名
令和6年 3月11日 10:30~12:00	明石市障害者就労・生 活支援センターあくと	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 明石市自立支援協議会 相談支援部会第58回 事例検討会 「楽しく学べる 演口式事例検討会」	相談支援 専門員	17名
令和6年 3月15日 19:00~20:30	加古川市総合福祉会 館 3階	・形式(講義形式) ・主なテーマ・ <u>講義</u> 明石市障害者就労・生活支援センターあくと 職員勉強会 「障害福祉における就労支援のあれこれ」	あくと職員	6名
合 計				1124名

みんとは今年度、専任の相談支援専門員2名と兼任の相談員2名で実践を積み上げた。

ここに5年目の実践を報告する。

I 総合相談

1 相談支援を行った障害（児）者の人数

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障がい者	身体障害	3	16	6	4	8	1	15	25	15	13	25	19	150
	重症心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	知的障害	95	75	79	40	76	71	62	90	52	43	49	47	779
	精神障害	118	95	164	144	126	143	112	94	121	138	114	124	1493
	発達障害	2	9	6	22	12	23	30	16	30	13	10	9	182
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	その他	36	46	27	27	20	27	41	15	27	11	19	22	318
	小計	254	241	282	237	242	265	262	240	245	218	217	221	2924
障がい児	身体障害	28	38	26	13	9	3	11	5	17	4	1	20	175
	重症心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	知的障害	29	55	44	52	21	5	14	62	41	26	9	30	388
	精神障害	0	4	0	1	3	1	1	1	8	3	0	1	23
	発達障害	27	37	129	52	28	20	82	62	57	80	59	48	681
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	29	10	16	1	2	4	18	15	37	7	10	46	195
	小計	113	144	215	119	63	33	126	145	160	120	79	145	1462
合計	367	385	497	356	305	298	388	385	405	338	296	366	4386	

2 相談者種別

(件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
当事者	本人	110	110	137	122	107	112	119	116	90	94	114	99	1330
	家族・親族	35	42	75	45	36	40	38	60	72	40	24	61	568
	障がい者団体	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
支援機関	相談支援事業所	47	32	58	43	41	39	40	28	56	44	24	34	486
	サービス事業所	52	91	91	53	51	40	69	77	46	53	65	56	744
	専門支援機関	2	4	2	0	0	1	1	6	10	10	10	1	47
市	障がい福祉課	15	3	7	3	12	8	14	13	14	7	6	12	114
	介護保険課	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
	生活福祉課	2	2	3	1	1	12	20	11	18	8	4	10	92
	その他の課	11	9	12	13	8	0	1	15	17	14	7	28	135
関係機関ほか	地域包括	10	2	0	6	3	1	1	2	5	6	5	3	44
	健康福祉事務所	5	0	2	0	0	8	8	1	0	1	0	0	25
	教育機関	22	43	32	33	9	8	32	26	24	13	13	20	275
	医療機関	18	19	47	23	17	7	17	16	15	19	7	19	224
	民生委員	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	その他	38	28	31	14	20	22	24	13	37	29	17	23	296
合 計		367	385	497	356	305	298	388	385	405	338	296	366	4386

3 支援方法

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	11	15	20	7	9	6	9	7	17	13	10	16	140
来所相談 (市役所相談室)	13	19	22	12	7	13	18	14	7	15	7	15	162
同行	6	5	7	5	2	2	5	6	4	8	4	9	63
電話・FAX	259	289	380	260	215	200	267	269	303	254	209	267	3172
電子メール	66	47	55	56	66	72	78	74	59	38	58	50	719
個別支援会議	8	3	7	9	2	2	6	5	6	6	1	4	59
関係機関との調整	0	0	0	1	0	3	0	1	1	3	0	0	9
その他	4	7	6	6	4	0	5	9	8	1	7	5	62
合 計	367	385	497	356	305	298	388	385	405	338	296	366	4386

4 支援内容

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
① 福祉サービスの利用に関する支援	100	85	145	72	88	107	105	155	95	137	121	117	1327
② 障害や病状の理解に関する支援	2	3	4	7	8	5	6	13	3	10	10	8	79
③ 健康・医療に関する支援	14	25	62	18	21	30	27	15	29	28	11	21	301
④ 不安解消・情緒安定に関する支援	31	30	36	67	24	31	38	28	35	19	41	13	393
⑤ 保育・教育に関する支援	74	85	109	81	31	17	74	85	93	42	23	77	791
⑥ 家族関係・人間関係に関する支援	21	29	35	27	22	21	38	20	38	32	16	19	318
⑦ 家計・経済に関する支援	33	15	9	13	4	16	14	6	34	11	16	25	196
⑧ 生活技術に関する支援	22	27	38	17	25	7	35	15	39	22	18	19	284
⑨ 就労に関する支援	38	34	35	24	46	42	30	28	18	8	10	19	332
⑩ 社会参加・余暇活動に関する支援	1	2	1	3	1	1	1	1	3	3	1	2	20
⑪ 権利擁護に関する支援	3	0	1	0	9	0	7	1	1	0	0	1	23
⑫ その他（社会資源の活用など）	28	50	22	27	26	21	13	18	17	26	29	45	322
（内 訳）													
介護保険に関すること													
生活保護に関すること													
虐待防止に関すること	6	2			1					1	1		11
成年後見制度に関すること						1	1	3	1	1			7
その他	22	48	22	27	25	20	12	15	16	24	28	45	304
合 計	367	385	497	356	302	298	388	385	405	338	296	366	4386

Ⅱ 相談支援体制の整備

高砂コンサルタは今年度より3か月に1回のペースで開催。年4回の開催となった。第1回目で参加者から要望を募った結果、ケースワークを行うことと決まった。

成人1ケース、児童1ケースを模擬サービス担当者会議を実施した体で計画相談の見直しを行った。

また、4回開催のうち1回は、高砂市生活福祉課の主導で地域資源活用の実践をゲーム形式で学ぶ講習会を実施した。いずれも実践に適した学習会となり有意義なコンサルタだった。

1 開催月日と研修内容と出席人数

月日	議 題	会場・出席者	参 加 者
第1回 5/16	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所案内(8事業所) 児童発達・放デイ ブロッサムジュニア A型 ひより、かえで 移行 manaby B型・生活介護 なつとこちゃん グループホーム かりん、まごころ 訪問看護 みらくる ○高砂市より連絡 相談支援事業所基本の「き」 高砂市からのお願い、地域移行支援概要 ○懇親会 (高砂市への質問、コンサルタでしたいこと等) 	ユーアイ帆っと センター2F 交流スペース6・7 濱口・越田・岸本・石 井・藤田	<ul style="list-style-type: none"> ○市内相談支援事業所 8ヶ所・13名 ○市外相談支援事業所 2ヶ所・2名 ○事務局: 障がい福祉課 2名 基幹相談支援センター 5名 合計 22名
第2回 7/18	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所案内(5事業所) B型 IMT、ピカソに絵筆を グループホーム まる 訪問看護 心春 高砂市社協ボランティアセンター ○高砂市より連絡 軽微な変更の基準について 短期入所の支給決定及び利用状況について ○事例検討会 (成人ケース) 	ユーアイ帆っとセンター 2F 交流スペース6. 7 濱口・越田・岸本・石 井・藤田	<ul style="list-style-type: none"> ○市内相談支援事業所 8ヶ所・13名 ○市外相談支援事業所 3ヶ所・3名 ○事務局:障がい福祉課 基幹相談支援センター 5名 合計 21名
第3回 11/ 21	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所紹介(8事業所) 訪問看護 アカラ、レアレア、まごころ A型 アンビシャス B型 らいず、SHOP小鳥、ひかり 就労移行支援 ハンズ明石 ハンズ ○連絡事項 懇親会 	ユーアイ帆っとセンター 2F 交流スペース6. 7 濱口・越田・岸本・石 井・藤田	<ul style="list-style-type: none"> ○市内相談支援事業所 8ヶ所・10名 ○市外相談支援事業所 3ヶ所・4名 ○事務局:障がい福祉課 基幹相談支援センター 6名 合計20名
第4回 2/13	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所紹介(6事業所) B型 よつ葉、あしたばの家 訪問看護 358、たつこのこ 児童発達・放デイ みらいく 就労移行・定着支援 ワークホーム高砂 ○超高齢社会体験ゲームコミュニティーコーピング ○事務連絡(来年度のコンサルタに関して) 	ユーアイ帆っとセンター 1F 交流スペース6. 7 濱口・越田・岸本・石 井・藤田	<ul style="list-style-type: none"> ○市内相談支援事業所 8ヶ所・11名 ○市外相談支援事業所 7ヶ所・5名 ○事務局:障がい福祉課 基幹相談支援センター 5名 合計21名
事例 検討会 /30	<ul style="list-style-type: none"> ○事例検討(児童ケース) ○グループワーク ○発表 ○まとめ 	ユーアイ帆っとセンター 2F 会議室 濱口・越田・岸本・石 井・藤田	<ul style="list-style-type: none"> ○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名 ○事務局:基幹相談支援 センター 5名 合計 16名

2 指定相談支援事業者等に対する情報提供・専門的助言

		個別支援に関する相談	事業運営に関する相談	専門機関紹介等の情報提供	その他	合計
1	特定相談支援事業者・障がい児相談支援事業者	77	36	10	0	123
2	一般相談支援事業者	38	2	5	0	45
3	障がい福祉サービス事業者	49	18	5	0	72
4	その他	0	0	8	0	8
	合計	164	56	28	0	248

Ⅲ 権利擁護・虐待の防止

権利擁護全般では年間23件の相談を受け付け、関係機関と連携して解決にむけて動いた。

高砂市成年後見制度地域連携ネットワーク協議会の委員委嘱を受け、会議に参画した。また成年後見支援検討会議(成年後見個別検討会議)に毎月参加、成年後見制度利用及びその他支援の必要性の検討をおこなった。

Ⅳ 障がい者自立支援協議会の参画

今年度は部会、ワーキングは感染防止対策を行ったうえで通常通り開催できた。基幹センターみんとは、自立支援協議会と協働し、“だれもが、じぶんらしく、暮らせるまち”づくりに向けて、関係機関と連携しながら地域の推進に努めていきたい。

会議・活動	分類	参加者	実施日
全体会		越田	2024/2/16
運営会議		越田	2023/4/13、12/15
専門部会	くらし部会	越田	2023/6/8、10/5、12/7、2024/2/1
	こども部会	越田	2023/5/10、8/30、11/8、2024/1/10
ワーキング	課題抽出の会	越田 藤田	2023/4/07
	こども事業所	越田	2023/4/18、7/12、10/11、12/13
	保護者向けハンドブック	越田	2023/5/31、6/22、7/26、8/18、9/7、10/14
	トライアングルプロジェクト推進ワーキング	越田	2023/2/28
	お出かけマップ作成ワーキング	越田	2023/4/27、2024/1/19、3/8
	就労ワーキング	越田	2023/4/24、5/11、5/18、9/27、10/21 2023/3/7
	防災手帳ワーキング	越田	2023/6/6、7/15、8/24、10/3、10/20

	ヘルパー事業所連絡会	越田	2023/6/23
その他	本人会	越田 藤田	2023/5/28、8/27、10/1、11/26
	高砂ユニ NAVI	サッカー教室 藤田	2023/5/14、10/29、12/3、2024/3/5

以上

その他 研修会参加・研修講師

月/日	研修名	出席者(講師)
6/24	初任者応援研修	越田・石井
8/1	支町相談支援担当者・基幹相談支援センター連絡協議会	越田
10/4	自殺対策研修	越田・岸本
10/25	管内自殺対策担当者連絡会議	越田・岸本
11/2	モニタリング結果の検証と基幹相談支援センターの役割	石井・藤田 WEB 越田・岸本
11/16	高次脳機能障害における就労支援を考える	越田
11/18	医療的ケア児等コーディネーター連絡会	越田
12/8	兵庫県相談支援専門コース別研修	石井
2/22	虐待防止研修会	越田
3/6	市町相談支援担当者・基幹相談支援センター等連絡会議	越田
3/7	精神障害者地域支援連絡協議会	越田・岸本
2か月毎/1年間	高砂警察・高砂市役所・加古川健康福祉事務所 担当者会議	越田
毎月/1年間	成年後見支援会議	越田・岸本
2ヶ月毎/1年間	加古川雇用連絡調整会議	岸本

おわりに

基幹センターみんとは、自立支援協議会と協働、4つのワーキングに参画、成果物を作り上げることができた。さらに高砂市が“だれもが、じぶんらしく、暮らせるまち”になるよう、関係機関と連携しながら、地域課題に前向きに取り組んでいきたい。以上